



SystemGlobe DeploymentManager

Ver2.3 Lite

ユーザーズガイド

目次

動作環境.....	7
DPM のインストール	10
ICMB について.....	11
DPM を初めてお使いになる場合 (初期導入時).....	12
1. DPM の起動.....	12
2. DHCP サーバの設定	14
3. ガードパラメータの設定	18
シナリオ実行までの流れ.....	19
1. グループの登録.....	19
2. 収納ユニットの登録	20
3. コンピュータの登録	20
4. イメージファイルの作成	24
5. シナリオ作成	34
6. シナリオ割当て.....	40
7. シナリオ実行	41
DPM の各種設定と機能.....	42
1. 詳細設定	42
2. シナリオ	46
3. コンピュータに関する設定.....	47
4. 収納ユニット単位の設定	52
5. グループ単位の設定	52
6. シナリオ実行状況の確認画面	56
7. クライアント情報一括登録.....	58
8. 情報ファイル大量作成アシスト.....	61
9. 管理者パスワードの変更方法	62
10. ガードパラメータの設定方法	63
11. RAID 設定イメージファイルの作成方法.....	63
12. Red Hat Linux のインストール	65
12.1 NFS サービスのセットアップ	66
12.2 Red Hat Linux インストール CD のコピー	68
12.3 DHCP サービスのセットアップ	69
12.4 Linux ブートファイルの準備	70
12.5 Linux ブートファイルの編集	71
12.6 シナリオファイルの作成	72
12.7 シナリオ実行	72
12.8 注意事項、その他	73
表示メニューについて	74
ヘルプメニューについて.....	74
CPU ブレードの交換について	74

リモートアップデートサービスとエージェントサービスのインストール	75
リモートアップデートサービスのアンインストール	76
エージェントサービスのアンインストール	77
使用するポート番号について	77
Windows Server 2003 R2 について	78
トラブルシューティング	79
DPM のアンインストール	89
DPM の上書きインストール	90

商標について

SystemGlobeは日本電気株式会社の商標です。ESMPROは日本電気株式会社の登録商標です。

EXPRESSBUILDERは日本電気株式会社の商標です。Microsoft、Windows、MS-DOSは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Datalight is a registered trademark of Datalight, Inc. ROM-DOS is a trademark of Datalight, Inc. Copyright 1989-2006 Datalight, Inc., All Rights Reserved

Red Hatは米国およびその他の国でRed Hat, Inc.の登録商標または商標です。

LinuxはLinus Torvalds 氏の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

AdaptecとAdaptec Storage Managerは、米国Adaptec Inc.の登録商標または商標です。

PXE Software Copyright (C) 1997 – 2000 Intel Corporation

This is version 2004-May-22 of the Info-ZIP copyright and license. The definitive version of this document should be available at <ftp://ftp.info-zip.org/pub/infozip/license.html> indefinitely.

Copyright (c) 1990-2004 Info-ZIP. All rights reserved.

For the purposes of this copyright and license, "Info-ZIP" is defined as the following set of individuals:

Mark Adler, John Bush, Karl Davis, Harald Denker, Jean-Michel Dubois, Jean-loup Gailly, Hunter Goatley, Ian Gorman, Chris Herborth, Dirk Haase, Greg Hartwig, Robert Heath, Jonathan Hudson, Paul Kienitz, David Kirschbaum, Johnny Lee, Onno van der Linden, Igor Mandrichenko, Steve P. Miller, Sergio Monesi, Keith Owens, George Petrov, Greg Roelofs, Kai Uwe Rommel, Steve Salisbury, Dave Smith, Christian Spieler, Antoine Verheijen, Paul von Behren, Rich Wales, Mike White

This software is provided "as is," without warranty of any kind, express or implied. In no event shall Info-ZIP or its contributors be held liable for any direct, indirect, incidental, special or consequential damages arising out of the use of or inability to use this software.

Permission is granted to anyone to use this software for any purpose, including commercial applications, and to alter it and redistribute it freely, subject to the following restrictions:

Redistributions of source code must retain the above copyright notice, definition, disclaimer, and this list of conditions.

Redistributions in binary form (compiled executables) must reproduce the above copyright notice, definition, disclaimer, and this list of conditions in documentation and/or other materials provided with the distribution.

The sole exception to this condition is redistribution of a standard UnZipSFX binary (including SFXWiz) as part of a self-extracting archive; that is permitted without inclusion of this license, as long as the normal SFX banner has not been removed from the binary or disabled.

Altered versions--including, but not limited to, ports to new operating systems, existing ports with new graphical interfaces, and dynamic, shared, or static library versions--must be plainly marked as such and must not be misrepresented as being the original source. Such altered versions also must not be misrepresented as being Info-ZIP releases--including, but not limited to, labeling of the altered versions with the names "Info-ZIP" (or any variation thereof, including, but not limited to, different capitalizations), "Pocket UnZip," "WiZ" or

"MacZip" without the explicit permission of Info-ZIP. Such altered versions are further prohibited from misrepresentative use of the Zip-Bugs or Info-ZIP e-mail addresses or of the Info-ZIP URL(s). Info-ZIP retains the right to use the names "Info-ZIP," "Zip," "UnZip," "UnZipSFX," "WiZ," "Pocket UnZip," "Pocket Zip," and "MacZip" for its own source and binary releases.

その他、記載の会社名および商品名は各社の商標または登録商標です。

はじめに

このたびは、NEC の SystemGlobe DeploymentManager Ver2.3 Lite(以下、DPM と呼びます)をお買い求めいただき、まことにありがとうございます。

DPM は、以下の機能を提供し、Express5800/110Ba-m3 の導入・管理のコストや時間を削減することができます。また、これらの作業状況は、管理サーバから簡単に確認することができます。

1. オペレーティングシステム(Windows 2000、Windows Server 2003 、Linux)のインストール
2. System BIOS や FW 等のアップデート
3. Service Pack、HotFix の適用(1 の OS クリアインストールと同時に行う必要があります。)
4. ESMPRO/ServerAgent、エクスプレス通報サービス、Adaptec Storage Manager™ (以下、ASM と呼びます) のインストール(1 の OS クリアインストールと同時に行う必要があります。)

「アプリケーションの登録」、「バックアップ／リストア」、「ディスク複製」、「シナリオ実行のスケジュール」、「クライアントからのシナリオ実行機能」の機能を使用する場合は、別途「DeploymentManager」をお買い求めください。

重要

DPM を使用して Windows Server 2003 x64 Editions のインストールを行うことはできません。

注意

- 「管理サーバ」とは、DPM をインストールしたマシンをいいます。「管理サーバ」から遠隔操作を行われる Express5800/110Ba-m3 の CPU ブレードを「CPU ブレード」または「コンピュータ」といいます。
以降の説明についても、特に断りがない場合、「管理サーバ」、「CPU ブレード」、「コンピュータ」は上記の意味で記述されています。
- EXPRESSBUILDER のバージョンによっては、ESMPRO/ServerAgent、エクスプレス通報サービス登録時に「ESMPRO/DeploymentManager」と表示される場合があります。その際は「SystemGlobe DeploymentManager」と読み替えてください。登録には影響ありません。

動作環境

DPM は、以下の環境で使用してください。

【管理サーバ側環境】

HW 環境

CPU	Intel PentiumⅢ プロセッサ（600MHz）以上を推奨
メモリ容量	128MB 以上
ディスク容量	45MB 以上 ※1
その他	LAN ボード(Network Interface Card)、マウス、キーボード、1024x768 以上の解像度をもつディスプレイ必須

※1 DPM の実行に最低限必要な量です。DPM で使用するインストール用 OS ファイル、サービスパック／HotFix イメージ等を格納するために別途容量が必要になります。

重要

ICMB（Intelligent Chassis Management Bus）を使用した HW 管理を行う場合は、IPMI v1.5 以降をサポートしている Express5800 シリーズ装置をお使いください。詳しくは販売店にお問い合わせください

SW 環境

サポート OS	Windows 2000 Advanced Server、Server、Professional Windows Server 2003 Standard Edition、Enterprise Edition Windows XP Professional ※2
---------	---

※2 Windows XP Professional を使用される場合は、デスクトップの表示テーマを Windows クラシックに設定して使用してください。

【コンピュータ側環境】

HW 環境

LAN	Wake On LAN、PXE ブート
リモートインストール サポート OS	Windows 2000 Advanced Server、Server、Professional Windows XP Professional Windows Server 2003 Standard Edition、Enterprise Edition Red Hat Linux（詳細は「Linux 基本サービスセット」を参照）

※ BIOS の設定で、起動順位の先頭にネットワークブートを指定してください。
また、Wake On LAN の設定を行ってください。

ヒント

コンピュータがサポートしているオペレーティングシステムの種別は、コンピュータごとに異なります。サポートに関しては各コンピュータのユーザズガイドなどから確認してください。

重要

- Windows Server 2003 x64 Editions のインストールを行うことはできません。
- BIOS の設定方法はご使用の BIOS によって異なります。詳しくは販売店までお問い合わせください。BIOS の設定を変更する場合は十分注意して行ってください。
- Express5800/110Ba-m3 は出荷時に LAN 1 の方が LAN2 より起動順位が高く設定されていますので、LAN1 を使用する場合 BIOS 設定は不要です。
- ICMB 接続を利用して Express5800/110Ba-m3 を管理する場合は、LAN1 を使用してください。
- 既に LAN2 にて運用されている状態で新たに ICMB 機能を使用される場合は、次の手順で行ってください。

- 1) シナリオが実行中でないことを確認する
- 2) LAN2 で登録されているコンピュータを削除する
- 3) コンピュータのブート順位を LAN1 優先に変更する
- 4) ICMB ケーブルを接続する。
- 5) DPM のメニューから ICMB 接続を選択する

この手順でコンピュータ情報が自動的に登録されます。

なお、ICMB 機能では固定的に LAN1 を使用するため、LAN2 として登録されていたコンピュータ情報は削除されます。シナリオを実行していた場合もコンピュータ情報は削除されてしまいますので、ICMB の接続はシナリオを実行していないタイミングで行ってください。既に LAN1 を DPM に登録して運用されている場合はどのタイミングで接続しても問題ありません。

【ネットワーク環境】**HW 環境**

LAN 構成	管理サーバと管理対象となるコンピュータ間が 100Mbps 以上の LAN で接続されていること
その他	■ 自己診断機能付きのスイッチを使用の場合は、コンピュータを接続するポートの自己診断機能は OFF にすること。コンピュータの電源が ON した際、ネットワークブートするタイミングで自己診断が実行されると正しく通信できません。 ■ DPM は「Speed」は「Auto」の設定で、「Duplex」も「Auto」の設定でネゴシエーションします。スイッチの設定も「Speed」は「Auto」、「Duplex」は「Auto」の設定にしてください。

重要

管理サーバの IP アドレスは、DHCP による自動取得ではなく、固定 IP アドレスとしてください。

ヒント

固定の設定（100Mbps/FULL Duplex など）にする必要がある場合は販売店までお問い合わせください。

SW 環境

DHCP サーバ	DPM を用いてコンピュータを管理するために DHCP サーバ必須
----------	-----------------------------------

重要

DHCP サーバは、管理サーバ上に構築したものを使用することも、別のコンピュータに構築したものを使用することもできますが、管理サーバ上に構築した DHCP サービスを使用する場合は、同一ネットワークに他の DHCP サーバを設置しないでください。別のコンピュータ上に構築した DHCP サーバを使用する場合は、同一ネットワーク内に DHCP サーバが何台存在していても結構です。

注意

ネットワークに WINS サーバを構築している環境において、管理サーバで WINS サーバを使用する設定にする場合は、コンピュータ側でも同じく WINS サーバを使用する設定にしてください。この設定を行わない場合、管理サーバではコンピュータのアドレス解決が行えないため、電源状態の取得やシナリオ実行に失敗する場合があります。

DPM のインストール

DPM のインストール方法は以下の 2 通りの方法があります。

1. EXPRESSBUILDER CD-ROM の[MC メニュー]→[ソフトウェアのセットアップ]→
[SystemGlobe DeploymentManager Lite のセットアップ]を選択。
2. EXPRESSBUILDER CD-ROM の¥DPML¥SETUP¥SETUP.EXE を実行。

インストール画面表示後は画面の指示に従って進めてください。

インストール完了後、「システムのアップデート」「OEM ドライバのインストール」「AutoRAID」のモジュールの登録が行われます。必要に応じてインストールしてください。

以下の点にご注意ください。

- インストール及びこれ以降の作業は、Administrator 権限を持ったユーザで行ってください。
- インターネットプロトコル (TCP/IP) がインストールされている必要があります。
- 管理サーバの OS のネットワーク接続の IP アドレスの取得方法は、DHCP による自動取得ではなく固定 IP アドレスに設定してください。
- ルータ、Hub などネットワーク機器を越えた複数のサブネットを DPM で管理するには、あらかじめネットワーク機器で次の設定を行ってください。
 - Wake On LAN をするために、ダイレクトブロードキャストをルーティングする。
 - DHCP サーバから IP アドレスを全てのサブネットにリースできるようにルーティングする。
- DHCP サーバが必要となりますのでお使いの環境にあわせて設定してください。
- DHCP サーバの設置場所に応じて、DPM 側にも DHCP 設定が必要です。詳しくは、「DPM をはじめてお使いになる場合(初期導入時)」の「2. DHCP のサーバの設定」を参照してください。
- ICMB をお使いになる場合は、「ICMB について」を参照して、ESMPRO/ServerAgent をインストールしてください。
- インストールに必要なディスク容量を確認してください。
DPM をインストールするハードディスクには、約 45MB の容量が必要です。

重要

- DPM のインストール前に、あらかじめ DHCP サーバの設定を行うことを推奨します。
- 同一ネットワーク上の複数のサーバに DPM をインストールしないでください。

ICMB について

ICMB は、IPMI で規定されるサーバ管理情報を取得するためのバスです。

ICMB を使用することにより CPU ブレードの以下のステータス情報を取得することができます。

- 挿入スロット位置情報
- 電源オン/オフ情報
- 強制シャットダウン

ICMB を使えば DPM で効率的に Express5800/110Ba-m3 を管理することが可能です。

ICMB を使用するには、管理サーバに IPMI v1.5 以降をサポートしている Express5800 シリーズをお使いの上、ESMPRO/ServerAgent をインストールしてください。その後、装置によっては ESMPRO/ServerAgent の Update を行ってください。

ESMPRO/ServerAgent と ESMPRO/ServerAgent の Update のインストールは、以下の手順を管理サーバ上で行ってください。Update を行う必要がない場合 3 は不要です。

1. 管理サーバに添付の EXPRESSBUILDER から ESMPRO/ServerAgent をインストール。
2. 管理サーバの再起動を行う。
3. ESMPRO/ServerAgent の Update を行う。

ヒント

ICMB をサポートする装置についてはお買い求めの販売店または保守サービスにお問い合わせください。

重要

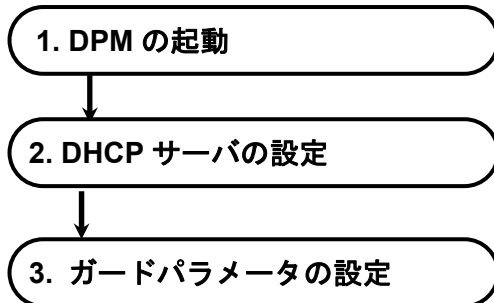
- DPM インストール後に、ESMPRO/ServerAgent をインストールする際は必ず DPM を終了させてからインストールしてください。
- Express5800/110Ba-m3 を ICMB 接続する場合は、LAN1 ポートを管理サーバに接続してください。
また、BIOS 初期値設定(ブート順位)が以下のような設定かご確認ください。
 - ・ CD
 - ・ リムーバブル
 - ・ LAN1 --- ネットワークブート有効
 - ・ HDD
 - ・ LAN2 --- ネットワークブート無効※LAN2 の設定がネットワークブート有効の場合、および LAN2 の設定が LAN1 より上位にありますと、DPM が正常に動作しない場合があります。上記以外の場合は設定変更をお願い致します。

注意

- Express5800/110Ba-m3 の場合、Express5800/110Ba-m3 に添付の EXPRESSBUILDER から ESMPRO/ServerAgent の Update を行う必要があります。上記の手順 3 を以下に変更してください。
3. Express5800/110Ba-m3に添付のEXPRESSBUILDER CD-ROMの¥DPML¥ ESMSA_up¥SETUP.EXEよりアップデートを実行。
- EXPRESSBUILDER のバージョンによっては、ESMPRO/ServerAgent のインストールに「ESMPRO/DeploymentManager」と表示される場合があります。その際は「SystemGlobe DeploymentManager」と読み替えてください。登録には影響ありません。

DPM を初めてお使いになる場合 (初期導入時)

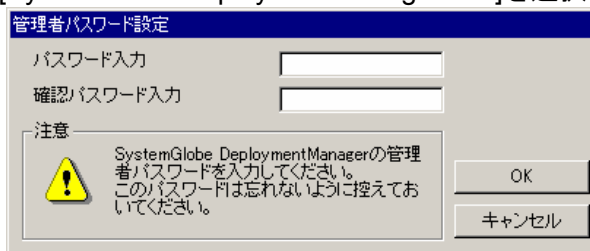
DPM を初めてお使いになる場合は、以下の流れで作業を行います。
それぞれの手順について説明します。



1. DPM の起動

以下の手順で、DPM を起動します。

- (1) [スタート]メニューから、[プログラム] → [SystemGlobe DeploymentManager] → [SystemGlobe DeploymentManager Lite]を選択する。[パスワード設定]画面が表示されます。



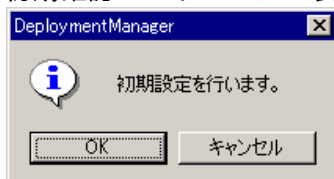
ヒント

パスワードは半角英数記号 1 文字から 15 文字まで入力できます。

重要

管理者パスワードとは「ガードパラメータ」の変更時や、「ガードパラメータ」で設定された処理実行時に入力するパスワードのことを指します。
ここで入力した管理者パスワードは絶対に忘れないようにしてください。管理者パスワードを忘れた場合、DPM の再インストールが必要になります。

- (2) 「パスワード入力」と「確認パスワード入力」に同じ管理者パスワードを入力し、[OK]ボタンをクリックする。
初期確認のメッセージが表示されます。



- (3) [OK]ボタンをクリックする。
詳細設定画面が表示されます。

詳細設定

全般 シナリオ ネットワーク DHCPサーバ

サーバ情報

コンピュータ名 Server

IPアドレス 192.168.0.1

サブネットマスク 255.255.255.0

共有フォルダ c:\Deploy 参照(B)

OK キャンセル

重要

管理サーバ自身の IP アドレスを変更する場合は DPM を終了させた後行ってください。また、全コンピュータに対して、管理サーバからシャットダウンを行ってください。

- (4) [全般]タブを選択し、必要な情報を入力します。

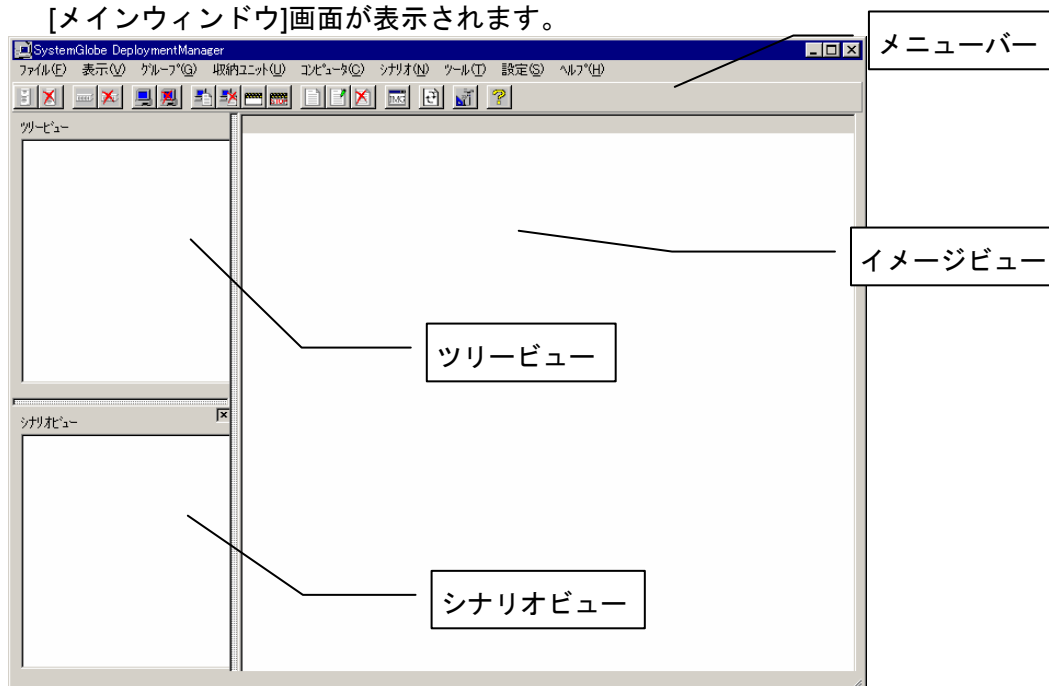
ヒント

- [サーバ情報]ボックスの IP アドレスは、管理サーバが複数の IP アドレスを持っている場合に DPM が使用する IP アドレスを選択します。
- [サーバ情報]ボックスの共有フォルダは、DPM でリモートインストールを行うオペレーティングシステム、アプリケーション、サービスパックを格納するフォルダ名を指定します。十分な空き容量を確保してください。初期値は「c:\Deploy」です。
- Windows のシステムフォルダや他のアプリケーションプログラムで使用しているフォルダは入力しないでください。

- (5) [シナリオ]タブ、[ネットワーク]タブ及び[DHCP サーバ]タブをそれぞれ選択し、必要な情報を入力し、[OK]ボタンをクリックする。各種設定値は変更可能ですが、初期値を推奨します。
詳細は、「DPM の各種設定と機能」の「1. 詳細設定」を参照してください。

(6)[OK]ボタンをクリックする。

[メインウィンドウ]画面が表示されます。



各項目の説明

- メニューバー
シナリオビューの表示、非表示の選択や、イメージビルダー画面の表示等を行います。
- ツリービュー
追加したグループや収納ユニットとコンピュータが表示されます。
- シナリオビュー
作成したシナリオが表示されます。
- イメージビュー
ツリービューで選択されているグループに属するコンピュータが表示されます。

2. DHCP サーバの設定

DPM がインストールされた管理サーバに DHCP サービスが動作しているか、または他に DHCP サーバを設置しているかで DPM の設定は異なります。

この設定は、DPM の[詳細設定]画面の[DHCP サーバ]タブで行います。

正しく設定されていないと、DPM をお使いいただくことができません。インストール時に必ず設定を行ってください。

注意

同じコンピュータに DPM と DHCP サービスを構築する場合のご注意

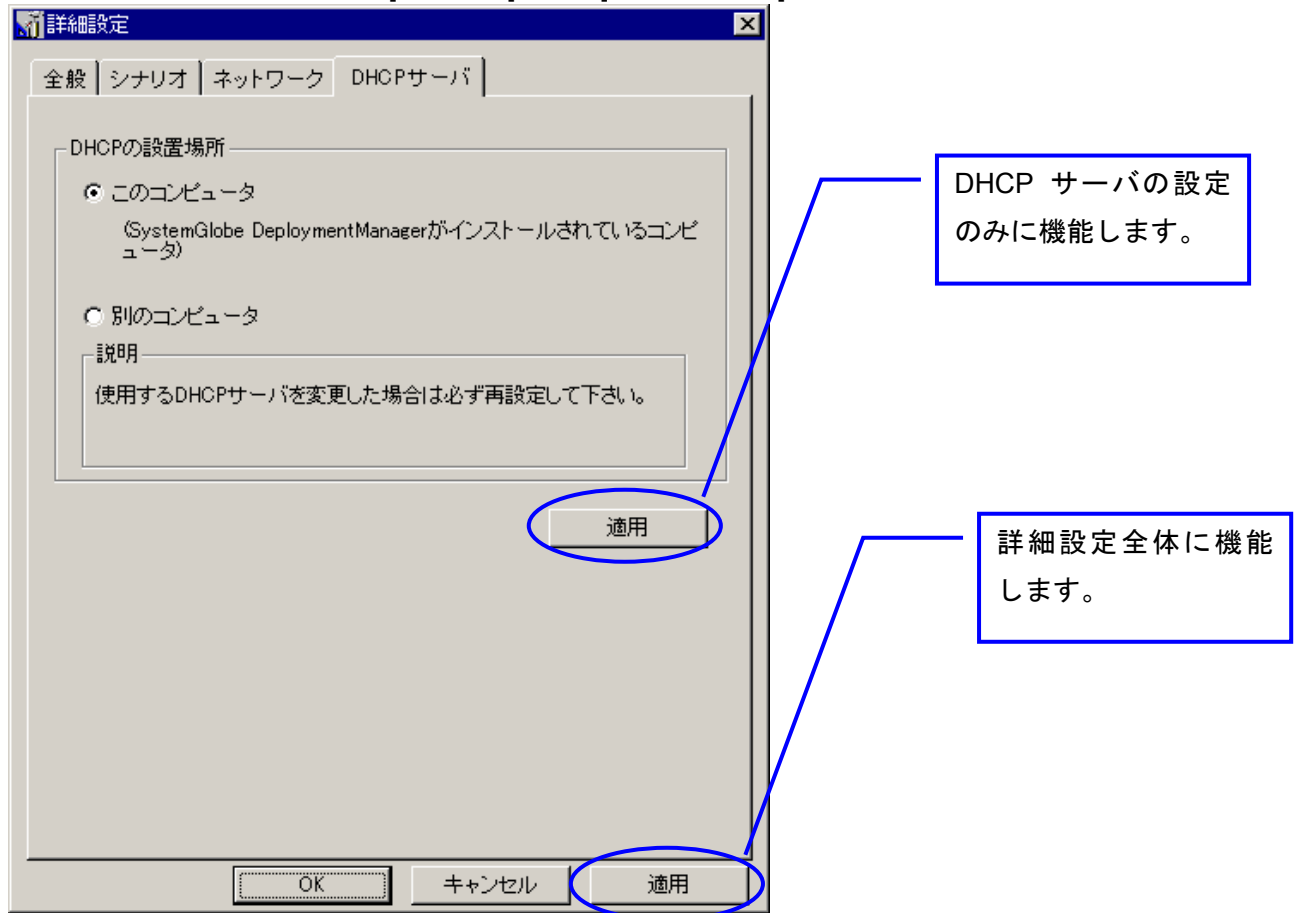
DPM をインストールしたコンピュータ上に DHCP サービスをインストールしている場合は、「このコンピュータ」を選択し、必ずその DHCP サービスを使用するようにしてください。DHCP サービスがインストールされ起動している場合は、「別のコンピュータ」を選択することはできません。

ヒント

[詳細設定]画面を表示するには、[設定]メニュー内の[詳細設定]を選択してください。

DHCP サーバタブ

DHCP サーバ設定は、DPM の[詳細設定]画面の[DHCP サーバ]タブで行います。



< [このコンピュータ]と[別のコンピュータ] >

DPM をインストールしたコンピュータに、DHCP サービスがインストールされているかどうかを指定します。インストールされている場合は、「このコンピュータ」を選択します。

< 適用 >

現在の設定内容に従って適用します。

ヒント

- [DHCP サーバ]タブ内の[適用]ボタンは、内容に変更がない場合でも現在の設定内容に従って適用処理が行われます。
- 下段の[適用]ボタンは、内容が変更された場合のみ適用が行われます。

DHCP サーバタブ設置場所の設定

次のような場合、[詳細設定]画面の[DHCP サーバ]タブで DPM にその変更を反映してください。

- DPM を初めてお使いになる場合
- DPM 導入後、DHCP サービスをインストールする場合
- DPM 導入後、DHCP サービスをアンインストールする場合

それぞれの場合についての設定手順を、以下に示します。

< DPM を初めてお使いになる場合 (初期導入時) >

- (1) DPM の[詳細設定]画面で、[DHCP サーバ]タブを選択する。
- (2) 「このコンピュータ」または「別のコンピュータ」のいずれかを選択する。
既に DHCP サービスがインストールされているコンピュータに DPM をインストールした場合は、「このコンピュータ」を選択します。DHCP サービスがインストールされていないコンピュータの場合は、「別のコンピュータ」を選択します。
- (3) [適用]ボタンをクリックする。クリック後、以下のポップアップが表示されます。



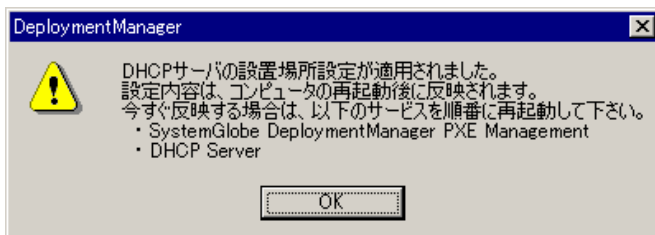
変更内容はコンピュータの再起動後に反映されます。再起動なしで反映させる場合は、ポップアップで表示されているサービスを「スタート」メニュー → 「設定」 → 「コントロールパネル」 → 「管理ツール」 → 「サービス」を選択し、再起動して下さい。
(複数表示されている場合は、上から順番に再起動します。)

< DPM 導入後、DHCP サービスをインストールする場合>

注意

以下の操作は、DHCP サービスのインストール後に行います。
DHCP サービスのインストール前に行った場合は、インストール後に、再度この操作が必要です。

- (1) DPM の[詳細設定]画面で、[DHCP サーバ]タブを選択する。
- (2) 「このコンピュータ」にチェックを入れる。
- (3) [適用]ボタンをクリックする。クリック後、以下のポップアップが表示されます。



変更内容はコンピュータの再起動後に反映されます。再起動なしで反映させる場合は、ポップアップで表示されているサービスを、「スタート」メニュー → 「設定」 → 「コントロールパネル」 → 「管理ツール」 → 「サービス」を選択し、再起動してください。
(複数表示されている場合は、上から順番に再起動します。)

< DPM 導入後、DHCP サービスをアンインストールする場合 >

注意

以下の操作は、DHCP サービスのアンインストール後に行います。
DHCP サービスのアンインストール前に行った場合は、アンインストール後に、再度この操作が必要です。

- (1) DPM の[詳細設定]画面で、[DHCP サーバ]タブを選択する。
- (2) 「別のコンピュータ」にチェックを入れる。
- (3) [適用]ボタンをクリックします。クリック後、以下のポップアップが表示されます。



変更内容はコンピュータの再起動後に反映されます。再起動なしで反映させる場合は、ポップアップで表示されているサービスを、「スタート」メニュー → 「設定」 → 「コントロールパネル」 → 「管理ツール」 → 「サービス」を選択し、再起動してください。

< DHCP サーバ構築時のご注意 >

Windows2000 Server 標準添付の DHCP サービス以外を使用して DHCP サーバを構築する場合は、次の点に注意してください。

● 固定アドレスの使用

例えば Linux を使って DHCP サーバを構築する場合、dhcpd.conf に固定アドレスの指定が必要になる場合があります。

固定アドレスとは、管理対象となるコンピュータの MAC アドレスと、リース予定の IP アドレスの組をあらかじめ DHCP サーバに登録しておくことにより、コンピュータからのアドレス要求に対して DHCP サーバが固定の IP アドレスをリースする仕組みです。

固定アドレスの記述がない場合、DHCP サーバからの応答遅延が発生する場合があります、その場合 PXE 起動(ネットワーク起動)が失敗し、その影響で DPM が正常に動作できません。Linux 以外の UNIX 系 OS についても、同様に固定アドレスが必要になる場合があります。

以下は、MAC アドレス(12:34:56:78:9A:BC)のホストに固定アドレスを指定した場合の/etc/dhcpd.conf の例です。

```
subnet 192.168.0.0 netmask 255.255.255.0 {  
    ...  
    ...  
    host computer-name {  
        hardware ethernet 12:34:56:78:9A:BC;  
        fixed-address 192.168.0.32;  
    }  
}
```

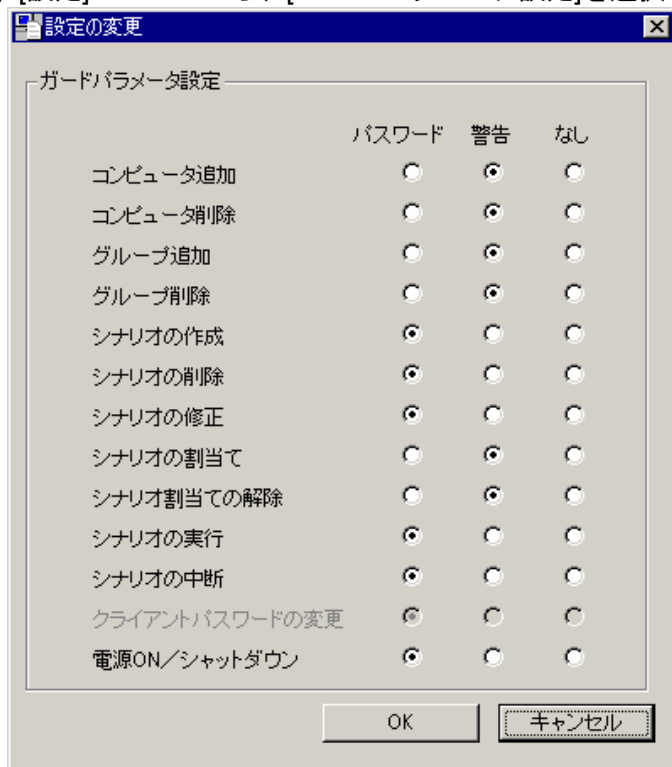
3. ガードパラメータの設定

ガードパラメータの設定を行います。ガードパラメータとは、それぞれの処理実行時に、「管理者パスワードを入力して確認する」か、「警告メッセージを表示する」か、「メッセージを表示しない」かを選択することができます。これにより、操作ミスを防ぐことができます。

ヒント

「管理者パスワード」については、「DPM の各種設定と機能」の「[9.管理者パスワードの変更方法](#)」を参照してください。

- (1) [設定]メニューから、[ガードパラメータ設定]を選択すると、[設定の変更]画面が表示されます。



- (2) それぞれの処理に対して「パスワード」、「警告」、「なし」のいずれかを選択する。

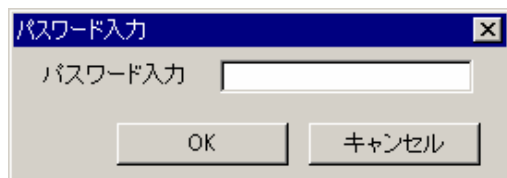
「パスワード」・・・処理実行時に、管理者パスワードを入力する画面を表示し、正しい管理者パスワードを入力しないと処理を実行できません。

「警告」・・・処理実行前に、確認メッセージを表示して注意します。誤って実行しないように確認メッセージを表示したい場合に設定してください。

「なし」・・・処理実行前に、管理者パスワードの入力も、確認メッセージの表示も一切行いません。

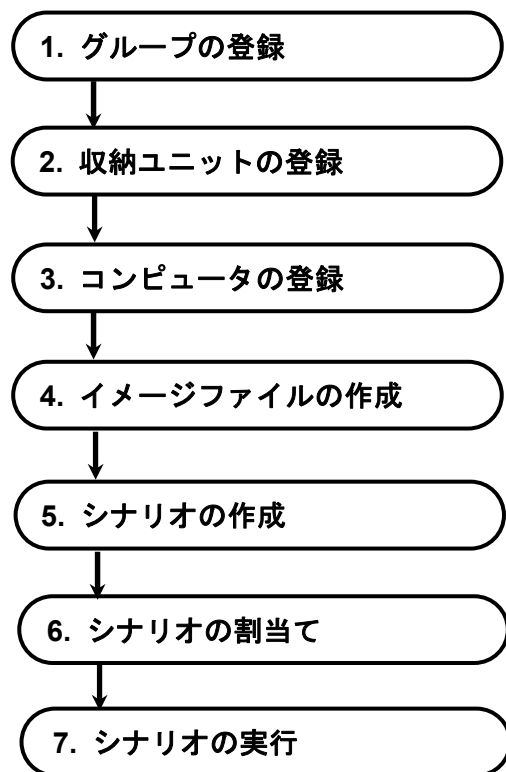
- (3) [OK]ボタンをクリックすると、[パスワード入力]画面が表示されます。

管理者パスワードを入力して、[OK]ボタンをクリックする。



ここまでの、初期設定の流れとなります。実際の使用方法については、「[シナリオ実行までの流れ](#)」を参照してください。

シナリオ実行までの流れ



ヒント

シナリオ作成後にも、コンピュータの登録を行うことができます。

1. グループの登録

コンピュータが属するグループの登録を行います。

- (1) ツリービュー上で右クリックし、[グループの追加]を選択する。
[グループの追加]画面が表示されるので、グループ名を入力する。

The screenshot shows a dialog box titled "グループの追加" (Add Group). It contains the following fields and options:

- グループ名** (Group Name): A text input field.
- グループの種類** (Group Type): Two radio button options:
- ☒ Express5800/BladeServer
- ☐ 一般コンピュータ (General Computer)
- ネットワークの設定** (Network Settings): Two radio button options:
- ☒ DeploymentManagerと同一サブネット (Same subnet as DeploymentManager)
- ☐ DeploymentManagerと別サブネット (Different subnet from DeploymentManager)
Below these are two IP address input fields:
- **デフォルトゲートウェイ** (Default Gateway): [] . [] . [] . []
- **サブネットマスク** (Subnet Mask): [] . [] . [] . []
- Buttons**: "OK" and "キャンセル" (Cancel).

ヒント

- グループ名は 64 文字以内の半角英数字と「-」「_」とピリオドが入力できます。
- グループは最大で 16 グループ登録できます。
- コンピュータは 1 グループにつき、最大で 320 台（1 グループ最大 16 収納ユニットで、1 収納ユニットあたりブレードは最大 20 台登録可能）登録可能です。
- [グループ]メニューの[グループの追加]を選択しても [グループの追加]画面を表示できます。
- ネットワークの設定の「DeploymentManager と別サブネット」は、管理サーバがルータを介して別のネットワークサブネットへ属する場合に指定してください。

- (2) [OK]ボタンをクリックする。
ツリービューに登録したグループ名が表示されます。

2. 収納ユニットの登録

CPU ブレードが属する収納ユニットの登録を行います。

ヒント

- ICMB 接続を行っている場合は、収納ユニットは自動的に登録されるので、登録の必要はありません。

- (1) ツリービュー上で収納ユニットを追加したい「グループ」を右クリックし、「収納ユニットの追加」を選択する。[ブレード収納ユニット ID 入力]画面が表示されます。



- (2) 収納ユニット ID を選択して、[OK]ボタンをクリックする。
ツリービューに登録した収納ユニット名が表示されます。

ヒント

使用するブレード収納ユニットの ID を選択します。数値は 1～16 までです。

注意

Express5800/110Ba-m3 の場合、収納ユニットの ID がロータリースイッチに「0～F」と書かれている場合、DPM では「1～16」に対応します。

3. コンピュータの登録

DPM で管理するコンピュータの登録を行います。登録方法は登録するコンピュータや ICMB 接続の有無によって異なります。

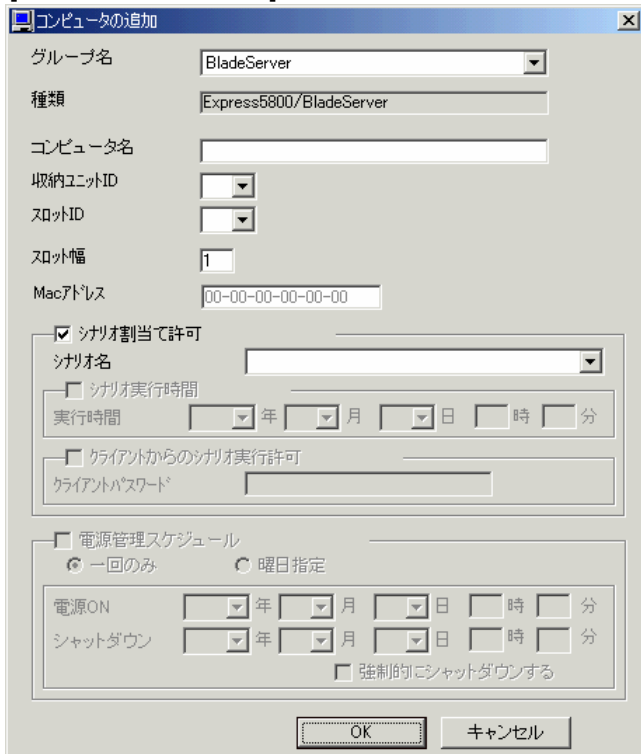
3.1 CPU ブレードの登録（ICMB 接続されていない場合）

<CPU ブレードを自動で登録する場合>

- (1) 手動で CPU ブレードの電源をオンにする。
- (2) ツリービュー上に「新規コンピュータ」が追加されます。「新規コンピュータ」をダブルクリックすると、手動で電源オンした CPU ブレードの「MAC アドレス」が表示されます。

- (3) ツリービュー上に表示された「MAC アドレス」を右クリックし、「コンピュータの追加」を選択する。

[コンピュータの追加]画面が表示されます。



ヒント

「MAC アドレス」をイメージビューにドラッグ&ドロップしても、「コンピュータの追加」を行うことができます。

- (4) 必要な項目を入力し、[OK]ボタンをクリックする。

ヒント

- コンピュータ名は 63 バイト（半角 63 文字、全角 31 文字）以内で入力できます。
「.」ピリオドと「;」セミコロンは入力できません。
- スロット ID は CPU ブレードを登録するブレード格納ユニットの位置情報です。
- スロット幅の規定値は 1 となっております。
装置により異なりますので、それぞれの装置に添付されているハードウェアセットアップ用のマニュアルを参照してください。
- 「シナリオ」は未入力でも CPU ブレードの登録は可能です。
- 「シナリオ」の設定内容については、「DPM の各種設定と機能」の「5.グループ単位の設定」を参照してください。
- ディスプレイが接続されている場合は、管理する CPU ブレード側の電源をオンにすると、ディスプレイに以下のメッセージが表示され、電源をオンにした CPU ブレードが管理サーバに登録されたことがわかります。

This Computer has been just registered by the management server.
Press F8 to view menu. (XX)

しばらくすると、自動的に電源オフされますが、すぐに電源をオフにしたい場合は、<F8>キーを押し、表示されたメニューから「Power Down」を選択してください。そのまま、CPU ブレードを起動したい場合は、<F8>キーを押し、表示されたメニューから「Local Boot」を選択してください。

重要

すでに管理する CPU ブレードに Windows OS がインストールされている場合は、必ずコンピュータ名は管理するコンピュータ名と同じ名前を登録してください。ステータス情報の取得などに使用します。

注意

- 本バージョンの DPM では、シナリオ実行時間、クライアントからのシナリオ実行許可、電源管理スケジュールを指定することはできません。
- コンピュータ名を 16 文字以上にした場合、別途 DNS サーバの構築またはコンピュータの hosts ファイルの編集などの名前解決をしてください。行わない場合、管理サーバからコンピュータの電源 ON、OFF 状態の確認、コンピュータの電源が ON の状態からのシナリオ実行ができません。

<CPU ブレードを手動で登録する場合>

- (1) ツリービュー上で CPU ブレードを登録する「収納ユニット」を右クリックし、「コンピュータの追加」を選択する。

「コンピュータの追加」画面が表示されます。

コンピュータの追加

グループ名: BladeServer

種類: Express5800/BladeServer

コンピュータ名:

収納ユニットID:

スロットID:

スロット幅: 1

Macアドレス:

☒ シナリオ割当て許可

シナリオ名:

☐ シナリオ実行時間

実行時間: 年 月 日 時 分

☐ クライアントからのシナリオ実行許可

クライアントパスワード:

☐ 電源管理スケジュール

☒ 一回のみ ☐ 曜日指定

電源ON: 年 月 日 時 分

シャットダウン: 年 月 日 時 分

☐ 強制的にシャットダウンする

OK キャンセル

ヒント

[コンピュータ]メニューの[コンピュータ追加]を選択しても [コンピュータの追加]画面を表示できます。

(2) 必要な項目を入力し、[OK]ボタンをクリックする。

ヒント

- コンピュータ名は 63 バイト（半角 63 文字、全角 31 文字）以内で入力できます。
「.」ピリオドと「;」セミコロンは入力できません。
- スロット ID は CPU ブレードを登録するブレード格納ユニットの位置情報です。
- スロット幅の規定値は 1 となっております。
装置により異なりますので、それぞれの装置に添付されているハードウェアセットアップ用のマニュアルを参照してください。
- 「シナリオ」は未入力でも CPU ブレードの登録は可能です。
- 「シナリオ」の設定内容については、「DPM の各種設定と機能」の「5.グループ単位の設定」を参照してください。

重要

すでに管理する CPU ブレードに Windows OS がインストールされている場合は、必ずコンピュータ名は管理するコンピュータ名と同じ名前を登録してください。ステータス情報の取得などに使用します。

注意

- 本バージョンの DPM では、シナリオ実行時間、クライアントからのシナリオ実行許可、電源管理スケジュールを指定することはできません。
- コンピュータ名を 16 文字以上にした場合、別途 DNS サーバの構築またはコンピュータの hosts ファイルの編集などの名前解決をしてください。行わない場合、管理サーバからコンピュータの電源 ON、OFF 状態の確認、コンピュータの電源が ON の状態からのシナリオ実行ができません。

3.2 CPU ブレードの登録（ICMB 接続している場合）

<CPU ブレードを自動で登録する場合>

- (1) ツリービュー上に表示された「グループ」を右クリックし、「ICMB 接続」を選択する。
- (2) [表示]メニューから、[最新の情報に更新]を選ぶ。
自動的に全ての CPU ブレードが登録されます。コンピュータ名は自動的に割り当てられますので、必要に応じて変更してください。

ICMB の接続・解除

ICMB はグループ単位で接続します。
1 グループに最大 16 個のブレード収納ユニットを格納できます。

<ICMB を接続する場合>

- (1) ツリービューで ICMB を接続するグループにフォーカスを当て右クリックする。
- (2) 表示されるメニューから「ICMB 接続」をクリックする。

<ICMB 接続を解除する場合>

- (1) ツリービューで ICMB 接続を解除するグループにフォーカスを当て右クリックする。
- (2) 表示されるメニューから「ICMB 切断」をクリックする。

重要

ICMB を使用するには、ESMPRO/ServerAgent がインストールされている必要があります。
ESMPRO/ServerAgent のインストールについては、[ICMB について]を参照してください。

注意

- DPM で表示している収納ユニット ID は、ICMB 接続している場合、CPU ブレードの筐体 ID 毎昇順に DPM で採番します。そのため、収納ユニット ID と筐体 ID は一致しない場合があります。また、収納ユニット ID は ICMB 情報取得ごとに再度採番しますので、変更される場合があります。

3.3 一般コンピュータの登録

本バージョンの DPM では指定することはできません。

4. イメージファイルの作成

DPM を使用して、リモートでコンピュータ側の BIOS をアップデートしたり、コンピュータ側に OS をインストールするためには、アップデート用のファイルや OS のファイルを DPM に登録する必要があります。

登録は、イメージビルダーというツールを使用します。

[ツール]メニューから、[イメージビルダー]を選択すると、[イメージビルダー]画面が表示されます。

各項目の説明と操作手順は、この後を参照してください。



各項目の説明

<フロッピーディスクのイメージ作成>

起動 FD 形式になっているアップデート媒体(BIOS や FW 等)のフロッピーディスクイメージを作成して登録します。

<オペレーティングシステムの登録>

OS をリモートインストールする場合は、あらかじめ OS ファイルを登録します。

Linux をインストールする場合は、イメージビルダーではなく、手作業による作業が必要になります。詳しくは、この後の「Linux のインストールについて」を参照してください。

<アプリケーションの登録>

本バージョンの DPM では使用できません。

<サービスパック、HotFix の登録>

サービスパック、HotFix をリモートインストールする場合は、サービスパック・HotFix のファイルをあらかじめ登録します。

ここで登録できるサービスパックと HotFix は、Windows OS にインストールし、インストール時にキー入力が必要なサービスパックと HotFix です。

<セットアップパラメータファイルの設定>

セットアップパラメータファイルは、Windows OS をリモートインストールするために使用するファイルです。Windows OS をリモートインストールする時は、必ず作成してください。

<登録データの削除>

作成したイメージデータを削除します。

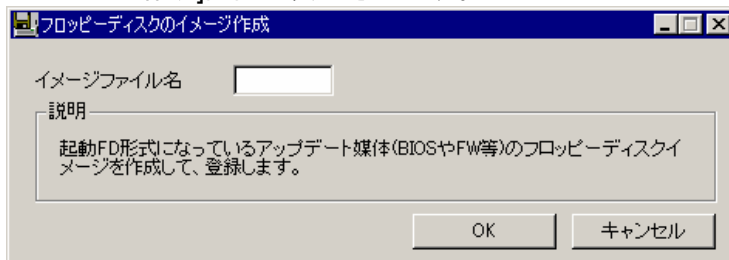
ヒント

オペレーティングシステム、サービスパック/HotFix の最大登録数は 999 件です。

各項目の操作手順

● フロッピーディスクのイメージ作成手順

- (1) [イメージビルダー]画面の[フロッピーディスクのイメージ作成]をクリックする。[フロッピーディスクのイメージ作成]画面が表示されます。



- (2) イメージファイル名を入力する。

ヒント

8 バイト（半角英数字または「.」、「_」、「-」）以内で入力できます。

- (3) 画面の指示に従って起動 FD をイメージ化する。

● オペレーティングシステムの登録手順

重要

- Linux をインストールする場合は、イメージビルダーではなく、手作業による作業が必要になります。詳しくは、「12. Red Hat Linux のインストール」を参照してください。
- DPM を使用して Windows Server 2003 x64 Editions のインストールを行うことはできません。
- Windows Server 2003 R2 の OS クリアインストールを行う場合、「Windows Server 2003 R2 について」を参照してください。

注意

マシンに添付されているバックアップ/リカバリ CD はご使用になれない場合があります。（CD-ROM）ディスクが i386 フォルダを含む形式であるものなら、インストール可能です。

- (1) [イメージビルダー]画面の[オペレーティングシステムの登録]をクリックする。
[オペレーティングシステムの登録]画面が表示されます。

- (2) 下記の項目を設定する。

- オペレーティングシステム名 : 126 バイト（半角 126 文字、全角 63 文字）以内で入力できます。ただし、「¥」、「;」、「”」は使用できません。また、「Linux」という名前で登録できません。
- オペレーティングシステム種別 : ▼ボタンをクリックし、リストから選択。
- CD-ROM のソースフォルダ : OS が格納されているフォルダを指定。
[参照]ボタンをクリックして指定できます。
インストールする OS が、Windows の場合は、
「CD-ROM のドライブ名:¥i386」を指定してください。

注意

- 「CD-ROM のソースフォルダ」に UNC (Universal Naming Convention) 形式 (¥¥「マシン名」¥「共有フォルダ」¥「サブディレクトリ」) の指定はできません。ネットワークドライブは「A-Z」ドライブにあらかじめ割り当てする必要があります。
- テキストボックスにメモ帳などからコピーして張り付ける場合、コピーの仕方によっては末尾に改行コードが含まれている場合があります。この場合は該当の改行が文字化けして表示されますので、文字化けの箇所を削除してください。

● **アプリケーションの登録手順**

本バージョンの DPM では使用できません。

● **サービスパック/HotFix の登録方法**

重要

ここで登録できるサービスパック/HotFix は、Windows OS にインストールし、インストール時にキー入力が必要かつ、インストール後、自動で再起動しないサービスパック/HotFix です。
本機能を用いて Linux パッチ、Linux アプリケーションの登録を行うことはできません。

- (1) [イメージビルダー]画面の[サービスパック/HotFix の登録]をクリックする。
[サービスパック/HotFix 登録]画面が表示されます。

(2) 下記の項目を設定する。

サービスパック／HotFix 名	126 バイト（半角 126 文字、全角 63 文字）以内で入力できます。ただし、「¥」、「;」、「”」は使用できません。
サービスパック／HotFix の選択	サービスパックか HotFix を選択。
コピー元フォルダ	登録するサービスパックまたは HotFix が格納されているフォルダを指定。[参照]ボタンをクリックして指定できます。
セットアップコマンド名	サービスパックまたは HotFix のセットアップコマンドを指定。[参照]ボタンをクリックして指定できます。
コマンドオプション	サービスパックまたは HotFix のセットアップコマンドオプションを指定。必要なコマンドオプションは、サービスパック、HotFix のマニュアル等を参照してください。 オプションは「無人モード」と「実行後再起動しない」の 2 つのオプションを指定してください。

重要

登録されたサービスパック/HotFix は、管理サーバの内部フォルダにコピーします。十分な空き容量を確保してください。

注意

- コマンドオプションはサービスパック/HotFix を「/h」または「-?」のオプションをつけて実行することで調べることができます。サイレントインストール型であり、インストール後に再起動を行わない設定のコマンドオプションを必ず指定してください。
- コマンドオプションはサービスパック、ハードウェアのマニュアルを参照した上で指定してください。
- 「コピー元フォルダ」に UNC（Universal Naming Convention）形式（¥「マシン名」¥「共有フォルダ」¥「サブディレクトリ」）の指定はできません。ネットワークドライブは「A-Z」ドライブにあらかじめ割り当てる必要があります。
- テキストボックスにメモ帳などからコピーして張り付ける場合、コピーの仕方によっては末尾に改行コードが含まれている場合があります。この場合は該当の改行が文字化けして表示されますので、文字化けの箇所を削除してください。
- Microsoft から提供されるセキュリティパッチの仕様によっては、実行パスに 2 バイト文字が含まれると処理が正常に行われない可能性があります。パッチを格納する「コピー元フォルダ名」は 1 バイト文字で作成されることを推奨します。

ヒント

Windows 2000 SP 1、2、3、4 を登録する場合は、コマンドオプションに再起動を行わないようにするために「-z」を指定してください。

サイレントインストールは以下の 2 つのどちらかを指定することを推奨します。

- 「-u」：無人モードで更新します。シナリオ実行中にエラーとなった場合はその箇所でシナリオ実行が止まってしまいます。OS インストール中だとタイムアウトするまで管理サーバ上ではシナリオ実行中となります。
- 「-q」：Quiet モードで実行します。シナリオ実行中にエラーとなった場合でもそのまま次へ進みます。そのため管理サーバ上でシナリオ実行完了となっても適用されていない場合があります。

● セットアップパラメータファイルの設定方法

重要

- Windows OS をインストールする時は、必ず設定してください。
- インストールするコンピュータ毎に作成する必要があります。

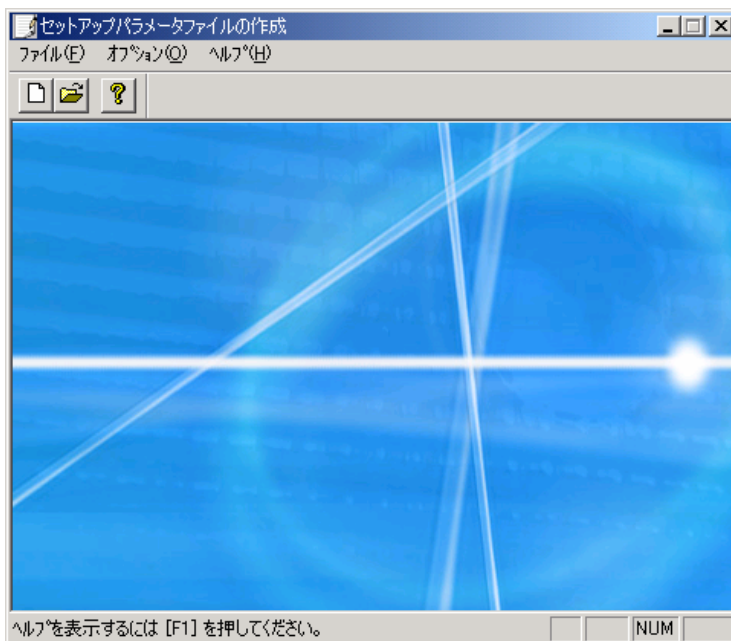
ヒント

大量にセットアップパラメータファイルを作成する場合は、「DPM の各種設定と機能」の「8.情報ファイル大量作成アシスト」を参照してください。

注意

- Windows OS の種類によって入力する項目が違います。
- 項目によっては他の項目のチェックが必要な場合があります。画面にそのようなメッセージが表示された場合は、その画面の指示に従ってください。

- (1) [イメージビルダー]画面の[セットアップパラメータの作成]をクリックする。
[セットアップパラメータファイルの作成]画面が表示されます。



- (2) [ファイル]メニューから、[情報ファイル新規作成]を選択する。
[基本情報]画面が表示されます。

- (3) [OS 種別] のプルダウンメニューからインストールする OS を選択します。他の設定は必要に応じて行います。設定が終了したら、[次へ] をクリックします。

(例) Windows 2000 Server をサイズ指定でインストールする場合

重要

- Express5800/110Ba-m3 のユーザズガイドの以下の箇所からインストールするために必要な最小限のパーティションサイズを確認してください。
“1.導入編”→“未インストールモデルのセットアップおよび再セットアップ”→“ローカルインストール”→●作成するパーティションサイズについて”
※例として、Windows Server 2003 と SP1 のインストールに必要なサイズは、2900MB(ユーザズガイドより Windows Server 2003 のインストールに必要なサイズ)と 1500MB(SP1 の適用に必要なサイズ)の計 4400MB になります。この値にページングファイルサイズ、ダンプファイルサイズ、アプリケーションサイズを加えることで必要なパーティションサイズを求めることができます。
確認した後、[パーティション]ボックスでインストールを行うパーティションを選択してください。
- HDD にパーティションを作成せず、ディスク全体にインストールしたいときは、[全領域] にチェックを入れます。
- インストールする HDD に既にパーティションが作成されているとき、その先頭のパーティションにクリアインストールしたいときは、[既存のパーティション] にチェックを入れます。
- [既存のパーティション]ラジオボタンを選択する場合は、OS をインストールするコンピュータのパーティションが 4 GB 以上であることを確認してください。
- コンピュータ名は、コンピュータの登録の時に設定した名前を入力してください。
- その他変更したい項目で不明点がありましたら、「ヘルプ」が各画面に用意されていますので、参照してください。各項目の説明が書かれています。

注意

インストールパスに以下の文字を指定しないでください。

「¥」、「/」、「:」、「.」、「;」、「*」、「?」、「"」、「<」、「>」、「|」

上記文字を指定して OS インストールを行った場合、インストール途中で失敗します。

- (4) [ユーザ情報] 画面が表示されます。[使用者名]、[会社名]、[プロダクトキー] を入力し、[次へ] をクリックします。

(例) 使用者名 “user”、会社名 “TEST”、プロダクトキー “xxxxx-xxxxx-xxxxx-xxxxx-xxxxx” のとき

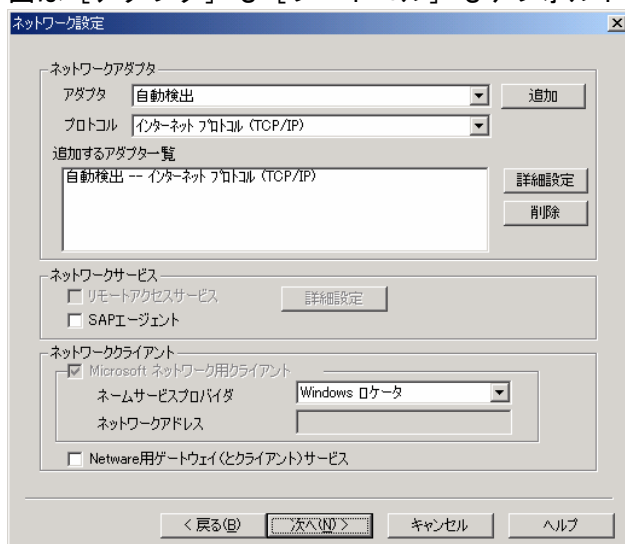
- (5) [コンピュータの役割] 画面が表示されます。ここでは、コンピュータ名を入力します。他の項目は必要に応じて、設定します。設定が終わったら、[次へ] をクリックしてください。

(例) コンピュータ名 “blade01” のとき

- (6) 「ドライバの設定」画面が表示されます。ここでは、とくに必要がなければ、そのまま「次へ」をクリックしてください。



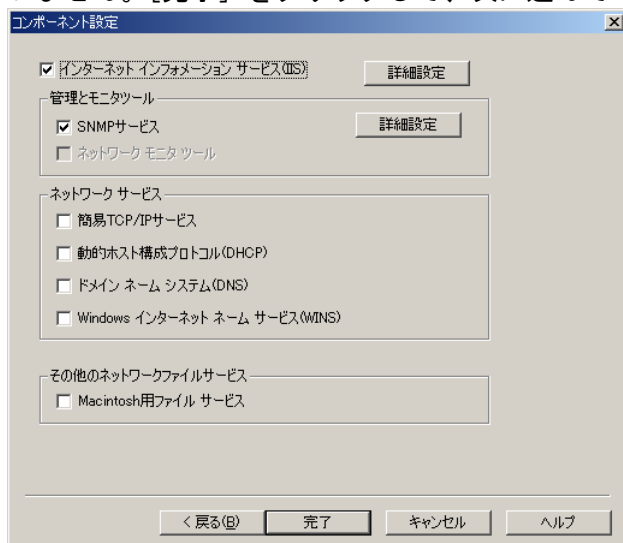
- (7) 「ネットワーク設定」画面が表示されます。「アダプタ」、「プロトコル」を選択し、「追加」をクリックします。必要に応じて、他の項目も設定します。設定が終わったら「次へ」をクリックします。下図は「アダプタ」も「プロトコル」もデフォルト設定を用いたときの設定例です。



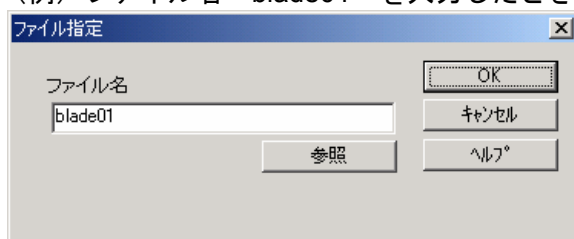
注意

「ネットワーク設定」画面で「Netware 用ゲートウェイ（とクライアント）サービス」または「Netware 用クライアントサービス」を選択してシナリオを実行すると、システムのアップデート以降のログイン画面で毎回「Netware ログオンの選択」画面が表示されます。これは Netware サーバの有無に関わらず表示されますが、20 分程度で自動ログインしシナリオは続行します。

- (8) [コンポーネント設定] 画面が表示されます。ここでは、とくに必要がなければ設定をしなくても構いません。[完了] をクリックして、次に進んでください。



- (9) 下図のような[ファイル指定] 画面が表示されます。ここでは、各種設定をしてきたパラメータファイルの名前を決めることができます。[ファイル名] を入力し、[OK] をクリックしてください。[セットアップパラメータファイルの作成] 画面が表示されたら、パラメータファイルの作成は完了です。
(例) ファイル名“blade01”を入力したときの例



重要

- [コンピュータの役割] 画面で入力するコンピュータ名は DPM に登録しているコンピュータ名にしてください。
- [ファイル指定] 画面で入力するファイル名は、できるだけ DPM に登録しているコンピュータ名にしてください。シナリオファイルの作成の際、パラメータファイルを「装置名に指定」にすることができ、1つのシナリオファイルで複数のコンピュータに転用できます。
- その他変更したい項目で不明点がありましたら、[ヘルプ] が各画面に用意されていますので、参照してください。各項目の説明が書かれています。

ヒント

[ファイル]メニューから[情報ファイルの修正]を選択すると、既存のセットアップパラメータファイルの内容を修正することができます。別ファイル名をつけて保存することもできるので、既存のファイルを流用して新しいファイルを作成する時などに便利です。

● 登録データの削除方法

登録したイメージデータを削除したい場合は、以下の手順に行ってください。

(1) [イメージビルダー]画面の[登録データの削除]をクリックする。

[登録データの削除]画面が表示されます。

(2) 削除したい設定内容を選択し、[削除]ボタンをクリックする。

注意

登録データの削除を行うときに下記のメッセージが表示された場合は「はい」をクリックしてください。

共有フォルダ>¥PP¥ImageXXX を ImageXXX.PP として共有しています。
他のユーザーがこのフォルダ内のファイルを使用している可能性があります。
フォルダを削除すると共有は解除されます。解除してもよろしいでしょうか。

上記のメッセージの後に下記のメッセージが表示されますので「OK」をクリックしてください。削除が完了します。

「共有 ImageXXX.PP の削除中に、エラーが発生しました。この共有リソースは存在しません。」

※ XXX は数字です。

5. シナリオ作成

コンピュータにインストールを行う時、いつ、どのように、どのデータを使用してインストールするか指定することをシナリオ作成といいます。この時使用するのは、イメージビルダーで作成したデータです。下記の手順でシナリオ作成を行ってください。

- (1) シナリオビューで右クリックし、「シナリオファイルの作成」を選択する。
[シナリオファイルの作成]画面が表示されます。

ヒント

[シナリオ]メニューから [シナリオファイルの作成]を選択しても、[シナリオファイルの作成]画面を表示できます。

- (2) それぞれのタブで、イメージビルダーで作成したイメージファイルを選択する。
[オプション]タブでは、シナリオの実行条件を設定する。
設定後、シナリオ名を指定して、[OK]ボタンをクリックする。

ヒント

シナリオ名は 58 バイト（半角 58 文字、全角 29 文字）まで入力できます。
ただし、「¥」「/」「:」「,」「;」「*」「?」「"」「<」「>」「|」「.」は使用できません。

タブ	イメージビルダー	ファイル名
HW 設定	フロッピーディスクイメージ作成	イメージファイル名
オペレーティングシステム	オペレーティングシステムの登録	詳細は次に示す<オペレーティングシステムタブについて>参照。
アップデート	サービスパック/HotFix の登録	サービスパック/HotFix 名
アプリケーション	使用不可	使用不可
バックアップ /リストア	使用不可	使用不可
オプション	[実行前に再起動の強制実行を行う]と[実行後に電源を切断する]を選択。 [実行前に再起動の強制実行を行う]を選択すると、シナリオ実行前にコンピュータの電源がオン状態の場合は、強制的に電源オフを行ってから、シナリオを実行します。 <u>ただし、本機能が使用できるのは、コンピュータに Windows OS がインストールされている時だけです。Linux がインストールされている場合は使用できません。</u> [詳細設定]ボタンは使用できません。	

<HW 設定タブについて>

HW 設定画面では事前に登録作業を行うことにより、さまざまな設定を自動で行うことができます。以下のように項目を設定してください。

注意

同じバージョンのBIOSにBIOSのアップデートを実行したとき、BIOSの適用が正常に終了しないときがあります。このようなとき、DPMを使用してコンピュータにBIOSを適用しても正常に終了せず、タイムアウトするまでシナリオ実行エラーになりません。

■ AutoRAID

DPM を使用して、RAID の設定を行います。

インストール後に表示される項目で設定している場合は、以下の手順は不要です。

装置に添付されている EXPRESSBUILDER CD-ROM を使用して、AutoRAID 用のフロッピーディスクイメージを作成することが可能です。

ヒント

DPMのインストール後でも、EXPRESSBUILDER CD-ROM のMCメニュー「アップデートモジュールのDPMへの登録」を選択することにより、RAID設定イメージ登録を行うことが可能です。

EXPRESSBUILDER CD-ROM を使用したアップデートモジュールの DPM への登録

- ① 「EXPRESSBUILDER CD-ROM」を CD-ROM ドライブにセットする。
- ② 「ソフトウェアのセットアップ」を右クリックし、「アップデートモジュールの DPM への登録」を選択する。
- ③ メッセージに従い、作業を続行する。

注意

■RAID 設定イメージファイルと DeleteAllPartition を同時にシナリオファイルに設定するときは、必ず DeleteAllPartition を最初に設定してください。

■登録した RAID 設定イメージファイルの順番は正しく指定してください。Express5800/110Ba-m3 に対して、EXPRESSBUILDER Ver3.010x -B (x には a から z までのアルファベットが入ります。)を使用して RAID1 を構築される場合は以下の順番で指定してください。

MW_R1_1

MW_R1_2

RAID0 を構築される場合は以下の順番で指定してください。

MW_R0_1

MW_R0_2

■RAIDを構築される場合は、新規にOSをインストールする必要があります

<オペレーティングシステムタブについて>

オペレーティングシステムタブを選択すると、以下の画面が表示されます。以下のように項目を設定してください。

The screenshot shows a dialog box titled 'シナリオファイルの作成' (Scenario File Creation) with a tabbed interface. The 'オペレーティングシステム' (Operating System) tab is selected. It contains the following fields and options:

- オペレーティングシステム** (Operating System):
 - オペレーティングシステム名 (Operating System Name): A dropdown menu.
 - オペレーティングシステム種別 (Operating System Type): A text input field.
- パラメータファイル** (Parameter File):
 - ☒ 装置名で割り当てる (Assign by device name)
 - ☐ ファイル名を指定 (Specify file name): A dropdown menu.
- 大容量記憶装置用OEMドライバ (Large capacity storage OEM driver): A dropdown menu.
- システムのアップデート (System update): A dropdown menu.

At the bottom, there is a note: '[クライアントからのシナリオ実行を行う場合には、シナリオ名に半角英数記号を使用してください。]' (When executing the scenario from the client, use alphanumeric characters for the scenario name). Below this is a 'シナリオ名:' (Scenario name) text box and 'OK' and 'キャンセル' (Cancel) buttons.

- **オペレーティングシステム名**
イメージビルダーで作成した OS のイメージファイル名を▼ボタンをクリックして選択してください。
- **装置名で割り当てる**
OS のインストールを行う時、コンピュータ名と同じセットアップパラメータファイルを自動的に割り当てます。複数のコンピュータにインストールする場合、コンピュータと同じ数だけシナリオを作成する必要がありません。ただし、セットアップパラメータファイルとコンピュータ名は、必ず同じでなければなりません。(ファイル拡張子の.txtは無視します) また、セットアップパラメータファイルはインストールするコンピュータと同じ数だけ作成する必要があります。
- **ファイル名を指定**
OS のインストールを行う時、指定したセットアップパラメータファイルを使用します。複数のコンピュータにインストールする場合、コンピュータと同じ数だけシナリオを作成する必要があります。
セットアップパラメータファイルとコンピュータ名は、必ずしも同じである必要はありません。

重要

複数のコンピュータに OS クリアインストールを実行するとき、管理サーバ側の OS のクライアントアクセスライセンス(CAL)を確認する必要があります。詳細は、「DPM の各種設定と機能」の「1. 詳細設定」のネットワークを参照してください。

注意

ファイル名を指定した場合、コンピュータ名はセットアップパラメータファイルで指定したコンピュータ名に変更されます。

■ 大容量記憶装置用 OEM ドライバ

Windows OS の CD-ROM だけでは、その先に接続された HDD に対し、OS インストールができないような、3rd Party 製の SCSI、ディスクアレイコントローラのドライバを登録します。

それらのドライバをここで指定すれば、OS インストールが可能となります。

DPM のインストール時には、OEM ドライバモジュールの登録確認画面が表示されるので、指示に従って登録を行ってください。登録後は▼ボタンをクリックして、EXPRESSBUILDER のバージョンを選択してください。

ヒント

- DPM のインストール後でも、EXPRESSBUILDER CD-ROM の MC メニュー「アップデートモジュールの DPM への登録」を選択することにより、OEM ドライバモジュールの登録を行うことが可能です。
- EXPRESSBUILDER CD-ROM から登録される OEM ドライバモジュールのうち、モジュール名の末尾が「W2K」のものは Windows 2000 用、「DOTNET」は Windows Server 2003 用の OEM ドライバモジュールです。

EXPRESSBUILDER CD-ROM を使用したアップデートモジュールの DPM への登録

- ① 「EXPRESSBUILDER CD-ROM」を CD-ROM ドライブにセットする。
- ② 「ソフトウェアのセットアップ」を右クリックし、「アップデートモジュールの DPM への登録」を選択する。
- ③ メッセージに従い、作業を続行する。

■ システムのアップデート

シナリオ実行対象のコンピュータにシステムのアップデートを行います。

DPM のインストール時には、システムのアップデートモジュールの登録確認画面が表示されるので、指示に従って登録を行ってください。登録後は▼ボタンをクリックして、EXPRESSBUILDER のバージョンを選択してください。

ヒント

- DPM をインストール後でも、EXPRESSBUILDER CD-ROM の MC メニュー「アップデートモジュールの DPM への登録」を選択することにより、システムのアップデートモジュールの登録を行うことが可能です。
- EXPRESSBUILDER CD-ROM から登録されるアップデートモジュールのうち、モジュール名の末尾が「W2K」のものは Windows 2000 用、「DOTNET」は Windows Server 2003 用のアップデートモジュールです。

EXPRESSBUILDER CD-ROM を使用したアップデートモジュールの DPM への登録

- ① 「EXPRESSBUILDER CD-ROM」を CD-ROM ドライブにセットする。
- ② 「ソフトウェアのセットアップ」を右クリックし、「アップデートモジュールの DPM への登録」を選択する。
- ③ メッセージに従い、作業を続行する。

注意

- DPM を使用して Windows XP、Windows Server 2003 をインストールしても、Windows ライセンス認証は行われません。Windows ライセンス認証の手続きは OS インストール後、別途行ってください。
- OS をインストールしないハードディスクは、OS をインストール後に接続してください。
- ファイル名を指定した場合、コンピュータ名はセットアップパラメータファイルで指定したコンピュータ名に変更されます。
- [ディスクの管理]を使用してミラー化されているボリュームにインストールする場合は、インストールの実行前にミラー化を無効にして、ベーシックディスクに戻し、インストール完了後に再度ミラー化してください。
- MO 装置を接続したまま Windows OS のインストールを行うと、インストールに失敗することがあります。MO 装置を外してインストールを最初からやり直してください。
- ダイナミックディスクにアップグレードしたハードディスクについては、既存のパーティションを残したまま再インストールすることはできません。Windows OS をインストールするときに、「既存のパーティション」を選択しないでください。
- Windows OS をインストールするときに、「既存のパーティション」を選択すると、最初のパーティションの情報はフォーマットされ、すべてなくなります。それ以外のパーティションの情報は保持されます。
- Windows 2000、または Windows XP をインストールするときに、「新規パーティション」を選択した場合、パーティションサイズに 120GB 以上の値を指定しないでください。
- Windows 2000、または Windows XP をインストールするときに、実領域が 120GB 以上になる場合は、パーティションサイズに「全領域」を指定しないでください。

<アップデートタブ、アプリケーションタブについて>

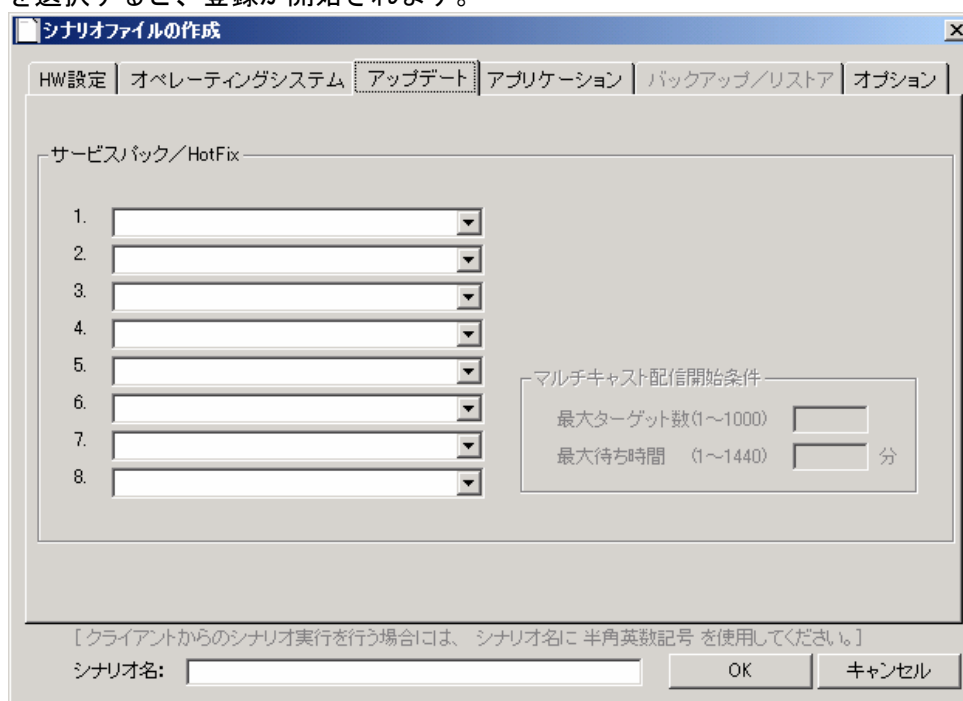
アプリケーションタブは、EXPRESSBUILDER の CD-ROM から ESMPRO/ServerAgent、エクスプレス通報サービス、ASM を選択することができます。

■ アプリケーションの登録方法

Express5800/110Ba-m3 に 添付されている EXPRESSBUILDER の CD-ROM を準備します。管理サーバ上で添付 EXPRESSBUILDER の CD-ROM を挿入すると表示される MC メニューから[ソフトウェアのセットアップ]を選択します。

ESMPRO/ServerAgent、エクスプレス通報サービスの場合は、[ESMPRO]→[DeploymentManager の登録]→[エクスプレス通報サービス]または[ESMPRO/ServerAgent]を選択すると、登録が開始されます。

ASM の場合は[Adaptec Storage Manager]→[DeploymentManager に ASM モジュールを登録]を選択すると、登録が開始されます。



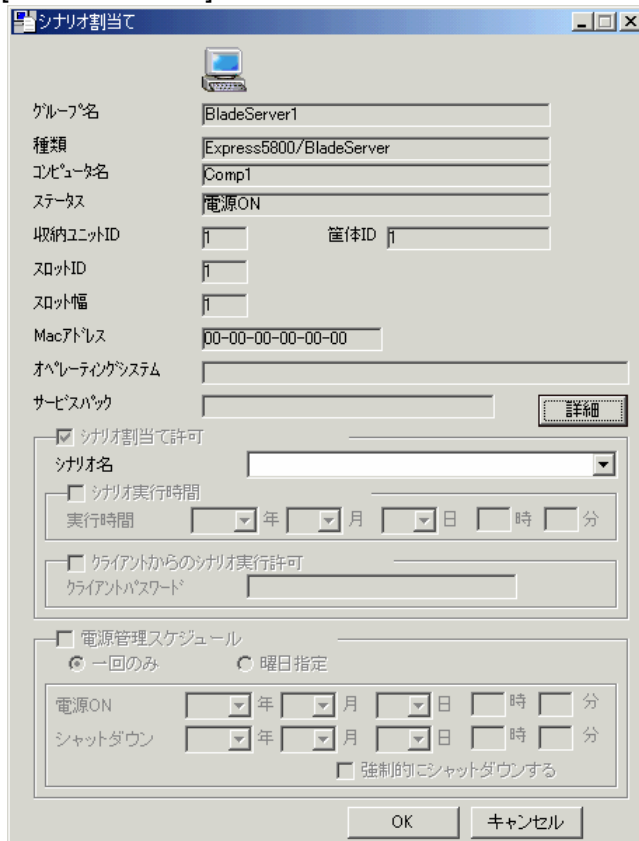
注意

- 本バージョンの DPM では、イメージビルダーからアプリケーションの登録を行うことはできません。また、Linux パッチ、Linux アプリケーションの配信を行うこともできません。
- EXPRESSBUILDER のバージョンによっては、アプリケーション登録時に「ESMPRO/DeploymentManager」と表示される場合があります。その際は「SystemGlobe DeploymentManager」と読み替えてください。登録には影響ありません。
- EXPRESSBUILDER から登録を行う場合は、DPM 初回起動時の詳細設定が完了している必要があります。登録を行う前に DPM をインストールして初回起動時に表示される詳細設定を行ってください。
- ESMPO/ServerAgent・エクスプレス通報サービスのインストールを行う場合は、[ESMPRO/ServerAgent]→[エクスプレス通報サービス]の順で設定してください。

6. シナリオ割当て

実行したいシナリオをコンピュータに割り当てます。

- (1) ツリービューから、シナリオを割り当てるコンピュータを選択する。
- (2) 選択したコンピュータを右クリックし、「シナリオ」→「シナリオ割当て」を選択する。
[シナリオ割当て]画面が表示されます。



ヒント

[コンピュータ]メニューから[シナリオ割当て]を選択しても、[シナリオ割当て]画面を表示できます。

- (3) [シナリオ名]ボックスの▼ボタンをクリックし、割り当てるシナリオを選択する。
- (4) [OK]ボタンをクリックする。
シナリオ割当て完了となります。

ヒント

- [シナリオ割当て]画面の[詳細]ボタンをクリックすると、[アップデート一覧]画面を表示できます。
- グループに登録しているコンピュータに、一括してシナリオを割り当てる場合は、「DPM の各種設定と機能」の「5.グループ単位の設定」を参照してください。
- シナリオビューにあるシナリオを、ツリービューまたは、イメージビューのコンピュータにドラッグ&ドロップして、シナリオを割り当てることもできます。

注意

- 本バージョンの DPM では、シナリオ実行時間、クライアントからのシナリオ実行許可、電源管理スケジュールを指定することはできません。
- 筐体 ID は、該当コンピュータが ICMB 接続中のみ表示します。

重要

- ブレード収納ユニットに収納されている CPU ブレードに、一括してシナリオを割り当てる場合は、「DPM の各種設定と機能」の「5.グループ単位の設定」を参照してください。
- アップデートの一覧を表示するには、コンピュータに[DPM エージェントサービス]がインストールされている必要があります。DPM を使用して、Windows OS をインストールした場合は自動でインストールされます。詳しくは「リモートアップデートサービスとエージェントサービスのインストール」を参照してください。

7. シナリオ実行

コンピュータに対して割り当てたシナリオを実行します。

重要

シナリオを実行する時、コンピュータの電源がオン状態の時は、シナリオ実行は開始されません。[シナリオファイル]の[オプション]タブで[実行前に再起動の強制実行を行う]を選択しておくか、シナリオ実行前に、手動で電源をオフしてください。ただし、Linux がインストールされている場合は、必ず手動で電源をオフしてからシナリオを実行してください。

注意

- シナリオを実行する場合は、インストール先のコンピュータにフロッピーディスクが挿入されていないことを確認してください。フロッピーが挿入されているとリモートインストールに失敗する場合があります。
- ネットワーク負荷の増大などの原因により、OS 新規インストール時にファイルコピーでエラーが発生し、シナリオの実行が失敗してしまう場合があります。このような場合は、同時に実行するコンピュータの数を減らすか、ネットワーク負荷の低い状態で運用してください。
- セットアップパラメータファイルで「Netware 用ゲートウェイ（とクライアント）サービス」または「Netware 用クライアントサービス」を選択してシナリオを実行すると、システムのアップデート以降のログイン画面で毎回「Netware ログオンの選択」画面が表示されます。これは Netware サーバの有無に関わらず表示されますが、20 分程度で自動ログインしシナリオは続行します。
- シナリオ実行直後には当該グループ、コンピュータ、シナリオの削除を行わないでください。シナリオ実行が正しく行われない可能性があります。

(1) ツリービューまたはイメージビューからシナリオを実行するコンピュータを選択する。

(2) 選択したコンピュータを右クリックし、「シナリオ」→「シナリオ実行」を選択する。
シナリオの実行が開始されます。

ヒント

[コンピュータ]メニューから[シナリオ実行]を選択しても、シナリオを実行できます。グループに登録しているコンピュータに、一括してシナリオを実行する場合は、「DPM の各種設定と機能」の「5.グループ単位の設定」を参照してください。

注意

シナリオ実行直後には当該グループ、コンピュータ、シナリオの削除を行わないでください。シナリオ実行が正しく行われない可能性があります。

(3) [OK]ボタンをクリックする。

ここまでの、シナリオ実行までの流れとなります。ここまでに記述されていない機能等については、各項目を参照してください。

DPM の各種設定と機能

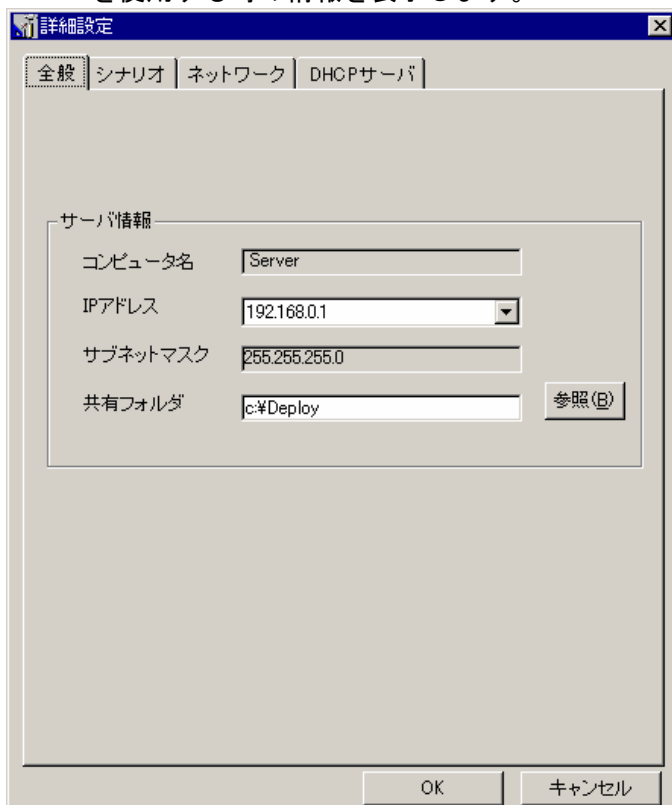
1. 詳細設定

ここでは、DPM を始めて起動した時に表示される[詳細設定]画面について説明します。

[詳細設定]画面は、DPM 起動後、[設定]メニューから[詳細設定]を選択すると表示され、設定の変更を行うことができます。

●全般

DPM を使用する時の情報を表示します。



IP アドレス	IP アドレスは、管理サーバが複数の IP アドレスを持っている場合に DPM が使用する IP アドレスを指定します。
共有フォルダ	共有フォルダは、DPM でリモートインストールを行うオペレーティングシステム、アプリケーション、サービスパック、各種 HW のアップデート媒体(BIOS、FW)を格納するフォルダ名を指定します。 十分な空きサイズのパーティションを指定してください。 初期値は「c:\Deploy」です。

重要

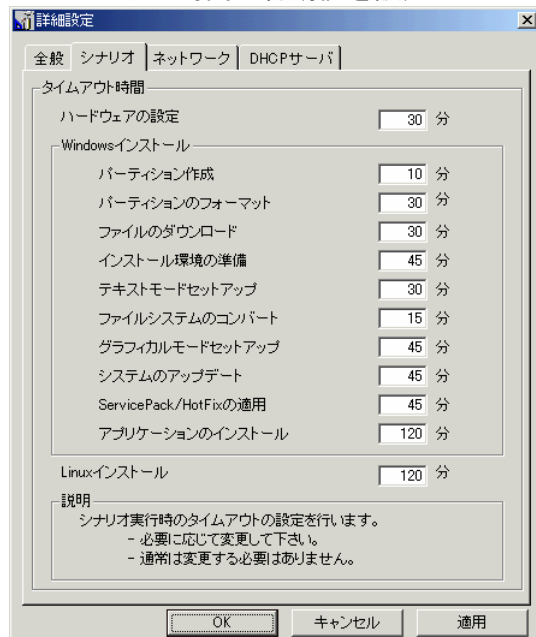
DPM がインストールされている管理サーバ自身の IP アドレスを変更する場合は DPM を終了させた後行ってください。IP アドレス変更後、全コンピュータに対して、管理サーバからシャットダウンを行ってください。

注意

- 共有フォルダには Windows のシステムフォルダや他のアプリケーションプログラムで使用しているフォルダは入力しないでください。
- 共有フォルダの変更は、必ずここから行ってください。また、共有フォルダの内容をユーザズガイドに記載している手順以外でエクスプローラ等から直接、編集・削除しないでください。

●シナリオ

DPM 実行時におけるタイムアウト時間の設定を行います。
タイムアウト時間は初期値を設定していますが、変更可能です。



ヒント

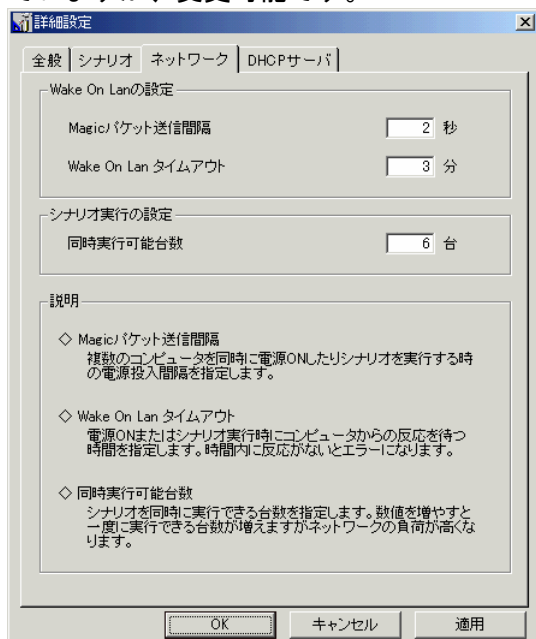
- シナリオタイムアウト時間とは、シナリオ実行時のタイムアウトの時間のことです。各項目で設定した時間を過ぎてもシナリオが終了しない場合は、シナリオ実行エラーとなります。
 - 「ハードウェアの設定」時間の初期値は 30 分ですが、AutoRAID 機能を使用する場合は、設定時間を長くすることをお勧めします。
 - AutoRAID の機能を使用する場合は、処理に必要な時間を確認し、[ハードウェアの設定]には十分な時間を設定してください。
- おおよその目安として下表の例を参考にしてください。

例) Express5800/120Ba-4 RAID1 構成の場合

HDD 容量	HDD 回転数	所要時間
36GB	15000rpm	30 分
36GB	10000rpm	35 分
73GB	15000rpm	50 分
73GB	10000rpm	55 分
146GB	10000rpm	100 分
300GB	10000rpm	150 分

●ネットワーク

ネットワークに関する設定を行います。Wake On LAN の待ち時間やタイムアウト値は初期値を設定していますが、変更可能です。



ヒント

- Magic パケット送信間隔とは複数のコンピュータを同時に電源 ON やシナリオ実行するときの電源を ON にする間隔のことです。デフォルトは 2 秒に設定されています。
- Wake On LAN タイムアウトとは電源 ON またはシナリオ実行時にコンピュータからの反応を待つ時間のことです。時間内に反応が無い場合は Wake On LAN エラーになります。デフォルトは 3 分に設定されています。電源 ON はするが Wake On LAN エラーが発生するという場合は、この数値を大きくしてください。
- 同時実行可能台数とはシナリオを同時に実行できる台数を指定します。同時実行台数の最大値は 1000 台となっておりますが、同時実行するシナリオ数が増えるとネットワークの負荷が高くなります。デフォルトは 6 台に設定されています。6 台を超えた台数を同時に実行する場合は設定を変更してください。
- 110Ba-m3 の場合、1 収納ユニット当たり最大 20 台 CPU ブレードを搭載可能ですが、ネットワークの負荷を考慮に入れて設定を行ってください。6 台から 10 台程度を推奨します。

複数のコンピュータにシナリオを同時実行する際の注意

複数のコンピュータに LinuxOS クリアインストールを実行するとき、管理サーバ側の OS のクライアントアクセスライセンス(CAL)を確認してください。5CAL の Windows 2000 Server を購入されている場合、シナリオ同時実行台数が 4 台を越えるとシナリオが正常に動作しない場合があります。正常にシナリオを進めるために以下の手順を行うか、実行する台数を減らしてください。

重要

同時実行できるコンピュータの台数は、(管理サーバの OS の CAL の数 - 1) 台になります。例えば、管理サーバが 5 台分の CAL を持っている場合は、 $5 - 1 = 4$ で 4 台に対してシナリオ同時実行が可能です。OS クリアインストールまたはディスク複製を実行すると、実行しているコンピュータ 1 台につき 1 ライセンスを使用し、サーバ自身も定期的にループバックテストを行っているため 1 ライセンスを使用しているためです。

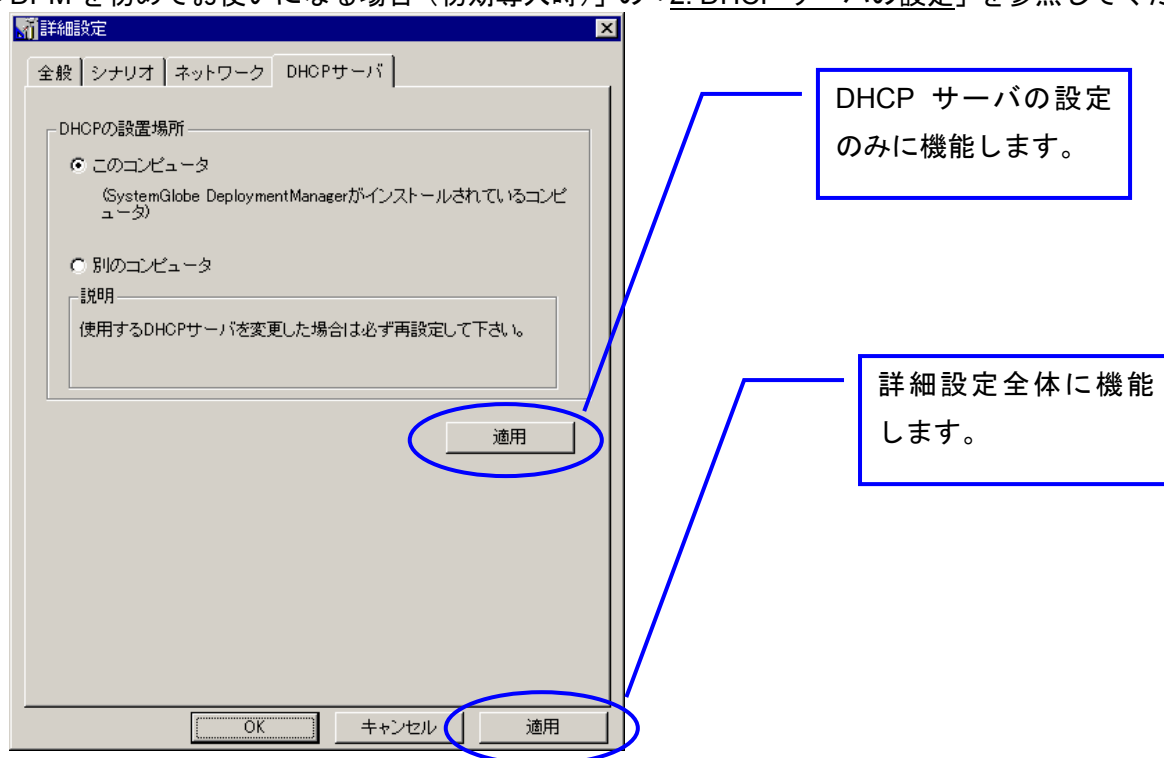
ライセンス数の確認

- (1) 管理サーバで[スタート]メニュー→[設定]→[コントロールパネル]→[管理ツール]を選択し、管理ツールを起動します。
- (2) [ライセンス発行]を選択します。[エンタープライズライセンス]の画面が表示されます。
- (3) [製品の表示]タブをクリックし、表示された画面で[購入した同時使用ユーザ数]を参照することで、現在接続可能な最大のターゲット数が分かります。

現在のライセンス数を確認し、必要な同時実行台数に満たない場合は、実行するコンピュータの台数を減らしてください。もしくは管理サーバの OS の CAL を購入し、ライセンスの追加を行ってください。

●DHCP サーバ

「DPM を初めてお使いになる場合（初期導入時）」の「2. DHCP サーバの設定」を参照してください。



重要

管理サーバ上に構築した DHCP サービスを使用する場合は、同一ネットワークに他の DHCP サーバを設置しないでください。別のコンピュータ上に構築した DHCP サーバを使用する場合は、同一ネットワーク内に DHCP サーバが何台存在していても結構です。

ヒント

- [DHCP サーバ]タブ内の[適用]ボタンは、内容に変更がない場合でも現在の設定内容に従って適用処理が行われます。
- 下段の[適用]ボタンは、内容が変更された場合のみ適用が行われます。

2. シナリオ

ここでは、作成したシナリオの修正方法、削除方法、プロパティの表示方法を説明します。

●シナリオファイルの作成

シナリオファイルの作成方法は、「シナリオ実行までの流れ」の「[5.シナリオ作成](#)」を参照してください。

●シナリオファイルの修正

作成したシナリオファイルは、以下の手順で修正できます。

- (1) シナリオビューから、修正するシナリオを選択する。
- (2) 選択したシナリオを右クリックし、「シナリオファイルの修正」を選択する。
[シナリオファイル修正]画面が表示されます。

ヒント

[シナリオ]メニューから [シナリオファイルの修正]を選択しても、[シナリオファイルの修正]画面を表示できます。

- (3) シナリオファイルを修正する。
- (4) [OK]ボタンをクリックする。
確認メッセージが表示されます。
- (5) [OK]ボタンをクリックする。

以上でシナリオファイルの修正は完了です。

●シナリオファイルの削除

作成したシナリオファイルは、以下の手順で削除できます。

- (1) シナリオビューから、削除するシナリオを選択する。
- (2) 選択したシナリオを右クリックし、「シナリオファイルの削除」を選択する。
[シナリオファイルの削除]画面が表示されます。

ヒント

[シナリオ]メニューから[編集]の[シナリオの削除]を選択しても、[シナリオファイルの削除]画面を表示できます。

注意

シナリオ実行直後には当該シナリオの削除を行わないでください。シナリオ実行が正しく行われない可能性があります。

- (3) [OK]ボタンをクリックする。

以上でシナリオファイルの削除は完了です。

●プロパティの表示

シナリオのプロパティは、以下の手順で表示できます。

- (1) シナリオビューから、プロパティを表示するシナリオを選択する。
- (2) 選択したシナリオを右クリックし、「プロパティ」を選択する。
[シナリオファイルのプロパティ]画面が表示されます。

ヒント

[シナリオ]メニューから[プロパティ]を選択しても、[シナリオファイルのプロパティ]画面を表示できます。

3. コンピュータに関する設定

ここでは、各コンピュータに関する設定方法について説明しています。シナリオの割り当てや実行、コンピュータの電源オン等を行うことができます。

●電源オン

以下の手順で、コンピュータの電源をオンにします。

- (1) ツリービューまたはイメージビューから、電源をオンにしたいコンピュータを選択する。
- (2) 選択したコンピュータを右クリックし、「電源 ON」を選択する。

注意

コンピュータが電源オンの状態となっても、画面上ではオン状態の表示となっていない場合があります。その場合、管理サーバ登録されたコンピュータ名と管理されるコンピュータ名を同一にする必要があります。同一にしている場合は [表示]メニューから[最新の情報に更新]を選択してください。

●シャットダウン

以下の手順で、コンピュータをシャットダウンします。

- (1) ツリービューまたはイメージビューから、シャットダウンしたいコンピュータを選択する。
- (2) 選択したコンピュータを右クリックし、「シャットダウン」を選択する。

注意

シャットダウンを行うには、管理サーバに登録されたコンピュータ名と管理されるコンピュータ名が同一である必要があります。またコンピュータが電源オフの状態となっても、画面上ではオフ状態の表示となっていない場合があります。その場合は[表示]メニューから[最新の情報に更新]を選択してください。

重要

- シャットダウン可能なのは、Windows OS のみです。Linux はシャットダウンできません。また、シャットダウンを行うには、コンピュータに[SystemGlobe DeploymentManager エージェントサービス]がインストールされている必要があります。DPM を使用して、Windows OS をインストールした場合は自動でインストールされます。詳しくは「リモートアップデートサービスとエージェントサービスのインストール」を参照してください。
- スクリーンセーバにパスワードロックがかかっている場合は、シャットダウンできません。必ず、パスワードロックを解除してから、シャットダウンしてください。Windows Server 2003 では、デフォルトでパスワードロックがかかりますので、ご注意ください。

●強制シャットダウン

重要

- 強制シャットダウンが選択可能なのは、CPU ブレードで ICMB 接続されているときのみです。
- 強制シャットダウンとは、装置の電源を OFF にする機能をいいます。通常の OS からのシャットダウンとは異なり、強制的に電源を OFF にします。
- 強制シャットダウンを実行後、DPM から CPU ブレードの電源をオンにできないことがあります。その場合は手動により CPU ブレードの電源をオンにしてください。

以下の手順で、CPU ブレードの電源を強制的に切断します。

- (1) ツリービューまたはイメージビューから、強制シャットダウンしたい CPU ブレードを選択する。
- (2) 選択した CPU ブレードを右クリックし、「強制シャットダウン」を選択する。

●シナリオ割当て

シナリオを割り当てる作成方法は、「シナリオ実行までの流れ」の「[6.シナリオ割当て](#)」を参照してください。

●シナリオ解除

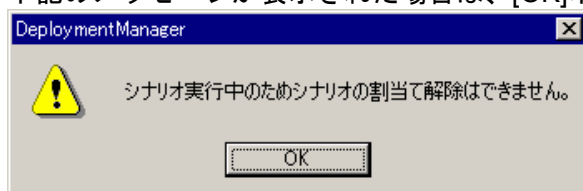
以下の手順で、割り当てられたシナリオを解除します。

- (1) ツリービューまたはイメージビューから、シナリオを解除したいコンピュータを選択する。
- (2) 選択したコンピュータを右クリックし、「シナリオ」→「シナリオ解除」を選択する。

ヒント

[コンピュータ]メニューから[シナリオ割り当て解除]を選択しても、割り当てられたシナリオを解除できます。

下記のメッセージが表示された場合は、[OK]ボタンをクリックしてください。



シナリオを解除するには、選択したコンピュータを右クリックし、「シナリオ」→「シナリオ実行中断」を選択後、再度、シナリオ解除を行ってください。

●シナリオ実行

シナリオファイルの作成方法は、「シナリオ実行までの流れ」の「[7.シナリオ実行](#)」を参照してください。

●シナリオ中断

以下の手順で、シナリオの実行を中断します。

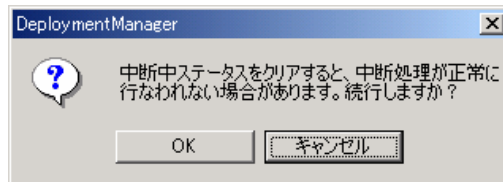
- (1) ツリービューまたはイメージビューからシナリオの実行を中断したいコンピュータを選択する。
- (2) 選択したコンピュータを右クリックし、「シナリオ」→「シナリオ中断」を選択する。
- (3) シナリオ中断を実行すると中断処理が終わるまでは、コンピュータアイコンが赤く点灯します。

ヒント

[コンピュータ]メニューから[シナリオ実行中断]を選択しても、シナリオの実行を中断できます。

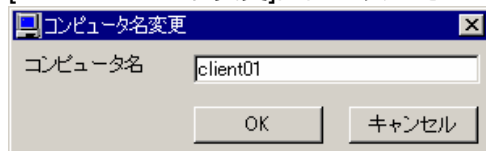
重要

- シナリオ中断したシナリオを、再開して実行することはできません。再度、シナリオを実行する時は、シナリオ実行中断処理が終わってから、再度、シナリオ実行してください。
- シナリオ実行中断処理中にシナリオ実行中断解除を選択すると、下記のメッセージが表示されます。中断処理が完了しない場合のみ[OK]ボタンをクリックしてください。

**●コンピュータ名変更**

以下の手順で、コンピュータの登録名を変更します。

- (1) ツリービューまたはイメージビューから、名前を変更したいコンピュータを選択する。
- (2) 選択したコンピュータを右クリックし、「コンピュータ名変更」を選択する。
[コンピュータ名変更]画面が表示されます。



- (3) 任意のコンピュータ名を入力する。

ヒント

- コンピュータ名は 63 バイト（半角 63 文字、全角 31 文字）以内で入力できます。ピリオドと「;」は入力できません。
- Windows OS をインストールするシナリオを作成する時、「パラメータファイル」を「ファイル名を指定」にした場合は、コンピュータ名は変更できません。変更するときはシナリオを解除してから行ってください。

重要

すでに管理するコンピュータに OS がインストールされている場合は、必ずコンピュータ名は管理するコンピュータ名と同じ名前を登録してください。

注意

コンピュータ名を 16 文字以上にした場合、別途 DNS サーバの構築またはコンピュータの hosts ファイルの編集などの名前解決をしてください。行わない場合、管理サーバからコンピュータの電源 ON、OFF 状態の確認、コンピュータの電源が ON の状態からのシナリオ実行ができません。

●シナリオ実行進行状況

以下の手順で、[シナリオ進行状況]画面を表示します。

- (1) ツリービューまたはイメージビューから、[シナリオ進行状況]画面を表示させたいコンピュータを選択する。
- (2) 選択したコンピュータを右クリックし、「シナリオ実行進行状況」を選択する。

注意

シナリオ実行進行状況は、シナリオ実行中のみ選択可能です。

●シナリオ実行中断解除

以下の手順で、シナリオ実行中断状態を解除します。自動的に中断状態が解除されない場合のみ実行してください。

- (1) ツリービューまたはイメージビューから、シナリオ実行中断状態を解除させたいコンピュータを選択する。
- (2) 選択したコンピュータを右クリックし、「シナリオ実行中断解除」を選択する。

注意

シナリオ実行中断解除は、シナリオ実行中断中のみ選択可能です。

●シナリオ実行エラー解除

以下の手順で、シナリオ実行エラー状態を解除します。

- (1) ツリービューまたはイメージビューから、シナリオ実行エラーを解除させたいコンピュータを選択する。
- (2) 選択したコンピュータを右クリックし、「シナリオ実行エラー解除」を選択する。

注意

シナリオ実行エラー解除は、シナリオ実行エラー中のみ選択可能です。

●コンピュータの削除

以下の手順で、登録されているコンピュータを削除します。

- (1) ツリービューまたはイメージビューから、削除したいコンピュータを選択する。
- (2) 選択したコンピュータを右クリックし、「コンピュータの削除」を選択する。

ヒント

[コンピュータ]メニューから[コンピュータ削除]を選択しても、コンピュータを削除できません。

注意

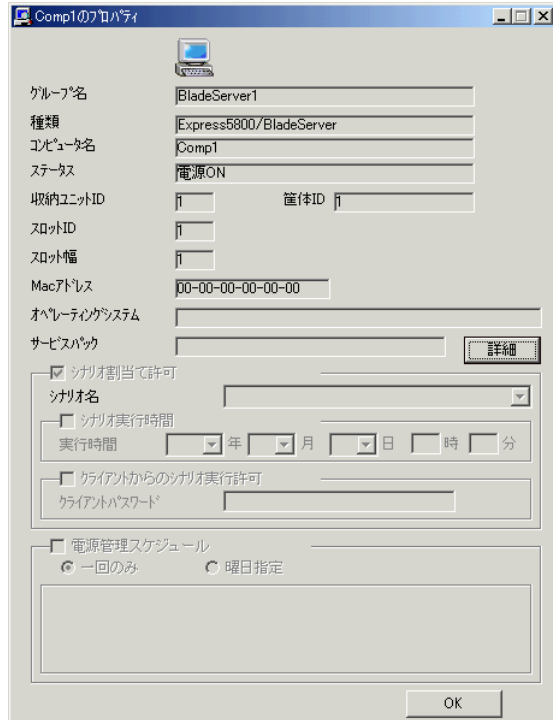
シナリオ実行直後には、コンピュータを削除しないでください。シナリオ実行が正しく行われない可能性があります。

●プロパティ

以下の手順で、コンピュータのプロパティを表示します。

- (1) ツリービューまたはイメージビューから、プロパティを表示させたいコンピュータを選択する。

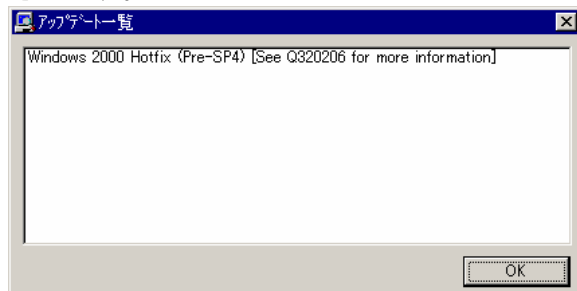
(2) 選択したコンピュータを右クリックし、「プロパティ」を選択する。[プロパティ]画面が表示されます。



ヒント

- [コンピュータ]メニューから[プロパティ]を選択しても、[プロパティ]画面を表示できません。
- 設定された[実行タイミング]によって、動作時間の項目が変わります。
- 筐体 ID は、該当コンピュータが ICMB 接続中のみ表示します。

(3) アップデートの一覧を表示したい場合は、[詳細]ボタンを選択する。[アップデート一覧]画面が表示されます。



コンピュータに登録されている HotFix の一覧が表示されます。

[OK]ボタンをクリックすると[プロパティ]画面に戻ります。

重要

- アップデートの一覧を表示するには、コンピュータに[SystemGlobe Deployment Manager エージェントサービス]がインストールされている必要があります。DPM を使用して、Windows OS をインストールした場合は自動でインストールされます。詳しくは「リモートアップデートサービスとエージェントサービスのインストール」を参照してください。
- Linux OS の場合は、アップデートの一覧に情報は表示されません。

注意

Express5800/BladeServer シリーズのカスタムインストールモデル*をご購入された場合、"オペレーティングシステム"、"サービスパック"、詳細ボタンをクリックした時に表示される"アップデート一覧"が表示されません。

表示するには以下の対応を行ってください。

1. %SystemRoot%\system32\DepAgent.exe のプロパティのバージョン情報タブからファイルバージョンを確認します。
- 1-1. ファイルバージョンが 1.0.1.2 の場合はリモートアップデートサービスとエージェントサービスを再度インストールする必要があります。詳しくは「[リモートアップデートサービスとエージェントサービスのインストール](#)」を参照してください。
- 1-2. 1-1 以外の場合は DPM を使用してシャットダウンを行うかサービスパック、HotFix のインストールを実行してください。

*ビルド・トゥ・オーダーで Windows2000、または、Windows Server 2003 をプレインストールした出荷モデル

アップデート一覧は最大 1024 バイトまでしか表示されません

4. 収納ユニット単位の設定

ここでは、収納ユニット選択時に選択できる各収納ユニットに関する設定方法について説明しています。

●収納ユニット ID の変更

- (1) ツリービューから、収納ユニット ID を変更したい収納ユニットを選択する。
- (2) 選択したグループを右クリックし、「収納ユニット ID の変更」を選択する。
[ブレード収納ユニット ID 変更]画面が表示されます。



- (3) 変更したい収納ユニット ID を選択して、[OK]ボタンをクリックする。

●収納ユニットの削除

- (1) ツリービューから、収納ユニットを削除したい収納ユニットを選択する。
- (2) 確認メッセージが表示されるので、[OK]ボタンをクリックする。

●コンピュータの追加

コンピュータの追加方法については、「シナリオ実行までの流れ」の「[3. コンピュータの登録](#)」を参照してください。

5. グループ単位の設定

ここでは、グループ選択時に選択できる各グループに関する設定方法について説明しています。

●グループの追加

「シナリオ実行までの流れ」の「[1. グループの登録](#)」を参照してください。

●グループ名の変更

- (1) ツリービューから変更したいグループを選択する。
- (2) 選択したグループを右クリックし、「グループ名の変更」を選択する。

●グループの削除

- (1) ツリービューから削除したいグループ名を選択する。
- (2) 選択したグループを右クリックし、「グループの削除」を選択する。

ヒント

[グループ]メニューから[グループの削除]を選択しても、グループの削除が行えます。

注意

シナリオ実行直後には、当該グループの削除を行わないでください。シナリオ実行が正しく行われない可能性があります。

●一括シナリオの割当て

グループに登録されているコンピュータに対して、一括してシナリオを割り当てることができます。

- (1) ツリービューから、一括してシナリオを割り当てたいグループを選択する。
- (2) 選択したグループを右クリックし、「一括設定」→「シナリオの割当て」を選択する。
[シナリオ割当て]画面が表示されます。

- (3) コンピュータの[シナリオ名]ボックスの▼ボタンをクリックし、表示されたシナリオから割り当てるシナリオを選択する。

ヒント

- [一括設定]ボタンを使用すると、グループに登録されているコンピュータに対して、すべて同じ設定を行うことができます。
- [元に戻す]ボタンを使用すると、[シナリオ割当て]画面初期表示時の設定状態に戻ります。

注意

シナリオ実行時間は指定することはできません。

- (4) [OK]ボタンをクリックする。シナリオ割当て完了となります。

●一括実行項目の設定

グループに登録されているコンピュータに対して、一括して実行項目の設定を行うことができます。

- (1) ツリービューから、一括実行を設定したいグループを選択する。

- (2) 選択したグループを右クリックし、「一括設定」→「実行項目」を選択する。
[一括実行項目の設定]画面が表示されます。

番号	ユニット ID	コンピュータ名	シナリオ名	ステータス情報	設定
1	1	Client01	FW	電源OFF	
2	1	Client02	Win2k_Install	電源ON	
3	1	Client03		電源OFF	
4	2	Client04		電源OFF	
5	2	Client05		電源OFF	

- (3) グループに登録されている各コンピュータの、設定(電源オン、シャットダウン、シナリオ実行、シナリオ実行中断)を選択し、[OK]ボタンをクリックする。

ヒント

- [コンピュータ名]、[シナリオ名]、[ステータス情報]は変更できません。
- [一括設定]ボタンを使用すると、グループに登録されているコンピュータに対して、すべて同じ設定を行うことができます。
- ステータス情報とシナリオ割当てによっては設定できない場合もあります。

注意

シナリオ実行直後には、当該グループの削除を行わないでください。シナリオ実行が正しく行われない可能性があります。

●収納ユニットの追加

コンピュータの追加方法については、「シナリオ実行までの流れ」の「3. コンピュータの登録」を参照してください。

●ICMB 接続

- (1) ツリービューから、ICMB 接続を行いたいグループを選択する。
- (2) 選択したグループを右クリックし、「ICMB 接続」を選択する。

ヒント

- ICMB 接続を行うには ESMPRO/ServerAgent をインストールする必要があります。詳しくは「[ICMB について](#)」を参照してください。
- グループ追加時に「Express5800/BladeServer」を選択したグループで、ICMB 接続されていない場合、選択できます。

●ICMB 切断

- (1) ツリービューから、ICMB 切断を行いたいグループを選択する。
- (2) 選択したグループを右クリックし、「ICMB 切断」を選択する。

ヒント

ICMB 接続されている場合、選択できます。

●コンピュータの追加

ここでは、[コンピュータの追加]画面の設定項目について説明します。コンピュータの追加方法については、「シナリオ実行までの流れ」の「3. コンピュータの登録」を参照してください。

- グループ名
コンピュータを追加するグループを選択します。
- コンピュータ名
コンピュータ名を設定します。
- 収納ユニット ID
ブレード収納ユニットの ID を選択します。
- スロット ID
CPU ブレードを挿入したスロットの ID を指定します。
- スロット幅
CPU ブレード 1 枚につき、使用するスロットの数を指定します。
- Mac アドレス
コンピュータの Mac アドレスを指定します。
- シナリオ割当て許可
シナリオの割り当てを許可する場合、指定します。
- シナリオ名
追加するコンピュータに割り当てるシナリオを設定します。
- シナリオ実行時間
本バージョンの DPM では使用できません。
- クライアントからのシナリオ実行許可
本バージョンの DPM では使用できません。
- クライアントパスワード
本バージョンの DPM では使用できません。
- 電源スケジュール管理
本バージョンの DPM では使用できません。

●プロパティ

グループのプロパティを表示します。

(1) ツリービューから、プロパティを表示したいグループを選択する。

(2) 選択したグループを右クリックし、「プロパティ」を選択する。

[グループのプロパティ]画面が表示されます。

ヒント

[グループ]メニューから[プロパティ]を選択しても、[グループのプロパティ]画面の表示が行えます。

6. シナリオ実行状況の確認画面

ここでは、シナリオ実行一覧等、シナリオ実行状況を表示する画面について説明します。

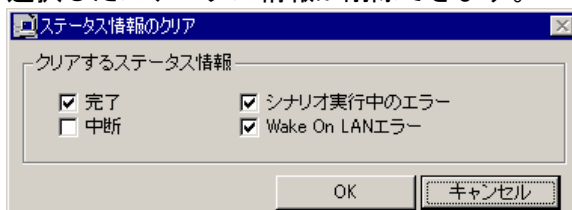
●シナリオ実行一覧

[表示]メニューから、[シナリオ実行状況] → [シナリオ実行一覧]を選択すると、[シナリオ実行一覧]画面を表示します。

コンピュータ名	MACアドレス	グループ名	シナリオ名	実行ステータス	進行状況
Comp-1	00-30-f1-06-77-b2	Group-A	warp-bak	バックアップ実行中	45%
Comp-2	00-30-f1-24-79-50	Group-A	comp2-bak	実行完了	100%
Comp-3	00-30-f1-32-03-1e	Group-A	rmtupd-sp2	実行完了	100%

シナリオ実行一覧は以下の機能があります。

- 最新の情報に更新(F5 キーでも更新できます)
[ファイル]メニューから、[最新の情報に更新]を選択すると、画面表示を最新の状態に更新します。
- ステータス情報のクリア
[ファイル]メニューから、[ステータスの一括クリア]を選択すると、クリアするステータス情報を選択する画面が表示されます。クリアするステータスを選択して、[OK]ボタンをクリックすると、選択したステータス情報が削除できます。



■ 表示

表示する情報ステータスを絞り込んで表示します。

[表示]メニューから[全て表示する]、[正常ステータスのみ表示する]、[異常ステータスのみ表示する]の3種類が選択可能です。

●バックアップ／リストア実行一覧

本バージョンの DPM では使用できません。

●シナリオ実行結果一覧

[表示]メニューから、[シナリオ実行状況] → [シナリオ実行結果一覧]を選択すると、[シナリオ実行結果一覧]画面を表示します。

種類	日付	時刻	Macアドレス	シナリオ名
実行開始	2003/06/13	15:03:46	00-00-00-00-00-00	Win2k_Install.snr
実行完了	2003/06/13	16:03:46	00-00-00-00-00-00	Win2k_Install.snr
実行開始	2003/06/13	17:04:16	00-00-00-00-00-01	Win2k_Install.snr
実行中断	2003/06/13	17:10:16	00-00-00-00-00-01	Win2k_Install.snr
実行開始	2003/06/13	18:04:43	00-00-00-00-00-03	BIOS_Update.snr
実行完了	2003/06/13	18:05:43	00-00-00-00-00-03	BIOS_Update.snr
実行開始	2003/06/13	19:05:04	00-00-4c-71-73-c5	BIOS_Update.snr
実行完了	2003/06/13	19:07:04	00-00-4c-71-73-c5	BIOS_Update.snr
実行開始	2003/06/13	20:05:59	00-00-4c-71-73-c6	BIOS_Update.snr
実行完了	2003/06/13	20:08:59	00-00-4c-71-73-c6	BIOS_Update.snr
実行開始	2003/06/13	21:06:40	00-00-00-00-00-02	BIOS_Update.snr
実行完了	2003/06/13	21:07:25	00-00-00-00-00-02	BIOS_Update.snr
実行開始	2003/06/14	15:21:52	00-00-4c-71-73-c5	Win2k_Install.snr
実行中断	2003/06/14	15:31:52	00-00-4c-71-73-c5	Win2k_Install.snr

この画面の機能は以下のとおりです。

- 最新の情報に更新(F5 キーでも更新できます)
[ファイル]メニューから、[最新の情報に更新]を選択すると、画面表示を最新の状態に更新します。
- CSV 形式で保存
シナリオの実行結果を CSV 形式で出力します。[ファイル]メニューから、[CSV 形式で保存]を選択して、出力するファイル名を指定してください。
- ログファイルの削除
表示しているログファイルを削除します(実行中、エラー状態のシナリオがある場合は削除不可)。
[ファイル]メニューから、[ログファイルの削除]を選択して、ログファイルの削除を行ってください。

7. クライアント情報一括登録

ここでは、コンピュータの情報を一括で登録する方法（インポート）や、登録されたコンピュータの情報を CSV ファイル形式で出力する方法（エクスポート）について説明します。

重要

ICMB 接続されているグループはインポート、およびエクスポートできません。

●コンピュータ情報インポート

- (1) 各クライアントの情報を記述した CSV ファイルを作成する。以下のフォーマットで記述する。

CSV ファイルの 1 行目は固定で、2 行目以降にクライアントの情報を記述してください。

CSV ファイルのフォーマット

```
"コンピュータ名","グループ名","MAC アドレス","収納ユニット ID","スロット ID","シナリオ割当許可","スロット幅"
"1 台目のコンピュータ名","グループ名","MAC アドレス","収納ユニット ID","スロット ID","シナリオ割当許可","スロット幅"
"2 台目のコンピュータ名","グループ名","MAC アドレス","収納ユニット ID","スロット ID","シナリオ割当許可","スロット幅"
.
.
```

ヒント

- コンピュータ名が“COMP1”、“COMP2”、“COMP3”の 3 台のコンピュータの情報を登録する CSV ファイルは、以下ようになります。

```
"コンピュータ名","グループ名","MAC アドレス","収納ユニット ID","スロット ID","シナリオ割当許可","スロット幅"
"COMP1","#BLADE-GROUP","00-11-22-33-44-55","1","1","1","1"
"COMP2","#BLADE-GROUP","00-11-22-33-44-66","1","3","0","1"
```

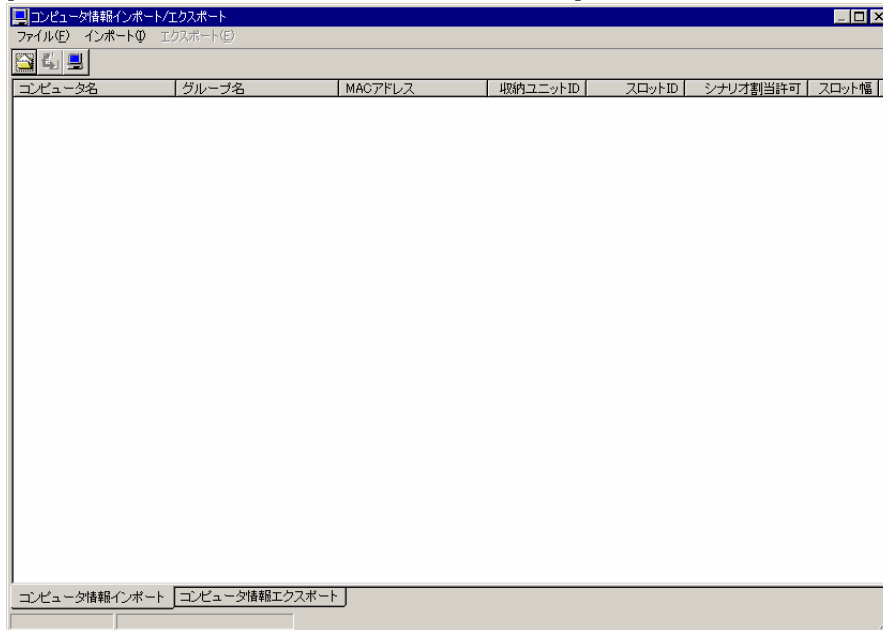
- CSV ファイルの 1 行目はコメント行です。省略はできません。
- 2 行目のデータから処理を行います。
- 同一 CSV ファイル内に、複数グループが混在しても登録可能です。
- スロット幅には、使用する CPU ブレードの使用スロット数を指定してください。指定しない場合は、スロット幅は「1」として登録されます。
装置により異なりますので、それぞれの装置に添付されているハードウェアセットアップ用のマニュアルを参照してください。
- CPU ブレードが属するグループ名の前には「#」を付けてください。グループ名が「BLADE-GROUP」の場合、CSV ファイル上では「#BLADE-GROUP」となります。
- 「コンピュータ情報エクスポート」で出力した CSV ファイルを使用した登録も可能です。
- シナリオ割当許可は、許可する場合は「1」を、許可しない場合は「0」を設定してください。指定しなかった場合は許可となります。
- 「」を含む文字列を指定する場合には、文字列を「」で囲まないでください。

- (2) 登録するコンピュータを追加するグループが作成されていない場合は、グループを作成する。

ヒント

- グループの作成方法は「DPM の各種設定と機能」の「5.グループ単位の指定」を参照してください。
- 収納ユニットは存在しない場合、自動的に登録されるので作成する必要はありません。

- (3) [ファイル]メニューから、[コンピュータ情報インポート／エクスポート]を選択する。
[コンピュータ情報インポート／エクスポート]画面が表示されます。



- (4) [コンピュータ情報インポート]タブをクリックする。

- (5) [ファイル]メニューから、[インポートファイル読込]を選択する。
ダイアログ画面が表示されるので、作成した CSV ファイルを選択する。
CSV ファイルの内容が画面に表示されます。

ヒント

-  アイコンを選択しても、ダイアログ画面を表示できます。
- CSV ファイルを画面上にドラッグ＆ドロップしても、CSV ファイルを読み込むことができます。
- [インポート]メニューから、[表示情報のクリア]を選択すると、一覧に表示している内容をクリアできます。

- (6) [インポート]メニューから、[インポート実行]を選択する。
[メインウィンドウ]画面にコンピュータの情報が登録されます。

ヒント

-  アイコンを選択しても、コンピュータの情報を登録できます。

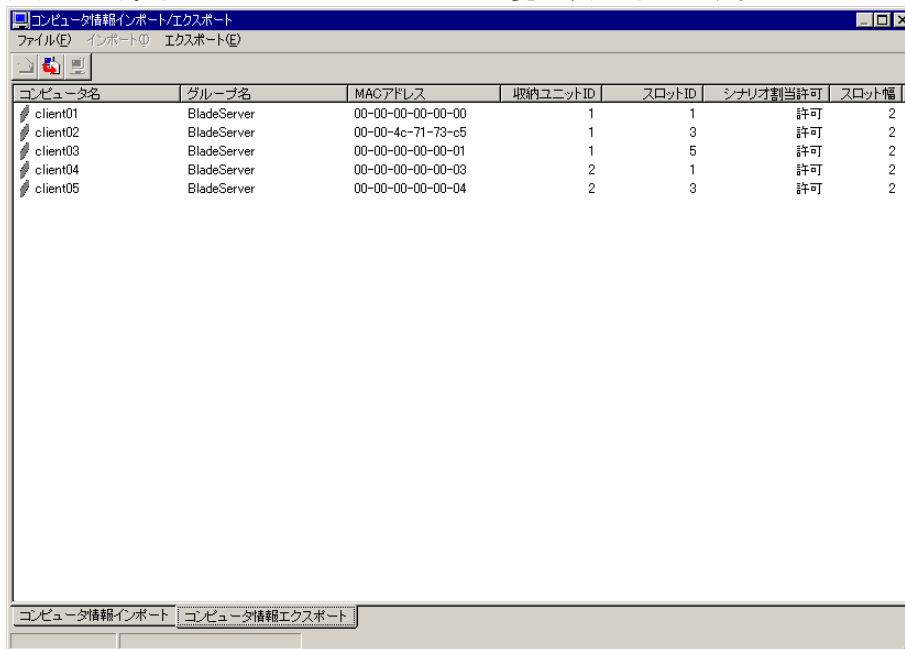
- (7) [ファイル]メニューから、[終了]を選択する。
[コンピュータ情報インポート／エクスポート]画面が終了します。

以上でコンピュータ情報のインポート作業は終了です。

●コンピュータ情報エクスポート

(1) [ファイル]メニューから、[コンピュータ情報インポート／エクスポート]を選択する。
[コンピュータ情報インポート／エクスポート]画面が表示されます。

(2) [コンピュータ情報エクスポート]タブをクリックする。
画面に登録されているコンピュータの一覧が表示されます。



ヒント

[エクスポート]メニューから、[最新の情報に更新]を選択すると、表示内容を最新の状態に更新できます。

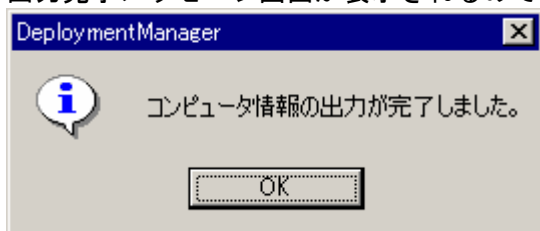
(3) [エクスポート]メニューから、[エクスポート実行]を選択する。
ダイアログ画面が表示されるので、出力する CSV ファイル名を指定する。

ヒント



アイコンを選択しても、コンピュータの情報を出力できます。

(4) 出力完了メッセージ画面が表示されるので、[OK]ボタンをクリックする。



(5) [ファイル]メニューから、[終了]を選択する。
[コンピュータ情報インポート／エクスポート]画面が終了します。

以上でコンピュータ情報のエクスポート作業は終了です。

8. 情報ファイル大量作成アシスト

ここでは、OS セットアップ時に必要となる、セットアップパラメータファイルの大量作成方法について説明します。

●情報ファイルの大量作成方法

ここでは、情報ファイルを大量に作成する方法を説明します。

- (1) 大量の情報ファイルを作成する元となる、情報ファイルを用意する。

ヒント

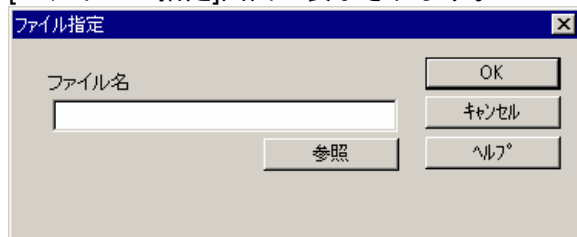
セットアップパラメータファイルの作成方法は、「シナリオ実行までの流れ」の「4.イメージファイルの作成」を参照してください。

- (2) [セットアップパラメータファイルの作成]画面の[オプション]メニューから、[情報ファイル大量作成アシスト]の[情報ファイル CSV 形式出力]を選択する。
[ファイルを開く]ダイアログ画面が表示されます。

ヒント

[セットアップパラメータファイルの作成]画面の表示方法は、「シナリオ実行までの流れ」の「4.イメージファイルの作成」を参照してください。

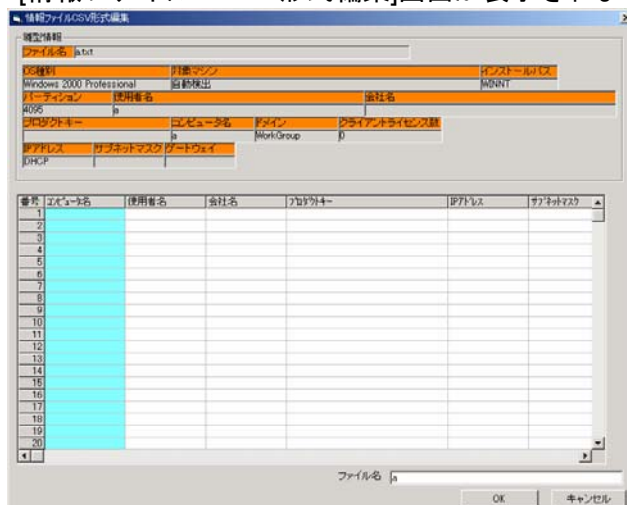
- (3) [ファイルを開く]ダイアログ画面で、(1)で用意したパラメータファイルを指定する。
[ファイルの指定]画面が表示されます。



- (4) 保存する CSV ファイル名を指定して、[OK]ボタンをクリックする。
CSV 形式の情報ファイルが作成されます。

- (5) [セットアップパラメータファイルの作成]画面の[オプション]メニューから、[情報ファイル大量作成アシスト]の[情報ファイル CSV 形式編集]を選択する。
[ファイルを選択してください]ダイアログ画面が表示されます。

- (6) [ファイルを選択してください]ダイアログ画面で、(4)で作成した CSV ファイルを指定する。
[情報ファイル CSV 形式編集]画面が表示されます。



- (7) 情報ファイルを作成したいコンピュータの数だけ情報を入力し、[OK]ボタンをクリックする。
CSV形式の情報ファイルが編集されます。

ヒント

- コンピュータ名は必ず入力してください。
- ファイル名はデフォルトで(4)で作成した CSV ファイル名になります。この画面での変更内容は、このファイル名で保存されます。別のファイル名で保存したい場合は、[OK]ボタンをクリックする前に変更してください。
- ここで編集する CSV ファイルは、直接ファイルを編集することも可能です。
- 一度に登録できる件数は、100 件までです。100 件を超えて登録する場合は、(4)で別の CSV ファイル名を指定して再度設定してください。

- (8) [セットアップパラメータファイルの作成]画面の[オプション]メニューから、[情報ファイル大量作成アシスト]の[情報ファイル大量作成]を選択する。
[ファイルを開く]ダイアログ画面が表示されます。

- (9) [ファイルを開く]ダイアログ画面で、(7)で編集した CSV ファイルを指定する。
[大量情報ファイル作成結果]画面が表示され、作成結果が表示されています。
CSV ファイルに登録されていたコンピュータの数だけ、ディスク複製用情報ファイルが作成されます。



ヒント

[大量情報ファイル作成結果]画面に、「情報ファイルの作成に失敗しました。」と表示された場合は、[エラー情報表示]ボタンをクリックしてください。エラーについての詳細な情報が表示されるので、その内容にしたがって CSV ファイルを修正後、再度実行してください。

以上で、情報ファイルの大量作成は完了です。

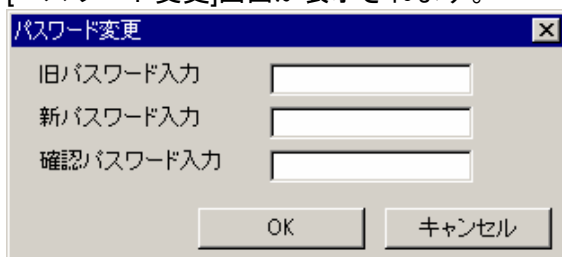
9. 管理者パスワードの変更方法

ここでは、管理者パスワードの変更方法について説明します。管理者パスワードとは「ガードパラメータ」の変更時や、「ガードパラメータ」で設定された処理実行時に入力するパスワードのことを指します。

ヒント

「ガードパラメータ」については、「[10. ガードパラメータの設定方法](#)」を参照してください。

- (1) [設定]メニューから、[管理者パスワード変更]を選択する。
[パスワード変更]画面が表示されます。



- (2) 「旧パスワード入力」に、現在設定されている管理者パスワードを入力する。
- (3) 「新パスワード入力」に、新しく変更したいパスワードを入力する。

- (4) 「確認パスワード入力」に、「新パスワード入力」に入力したパスワードと同じパスワードを、確認のために入力する。
- (5) [OK]ボタンをクリックする。

ヒント

パスワードは半角英数記号 1 文字から 15 文字まで入力できます。

注意

- パスワードは大文字／小文字が区別されますので間違わないように入力してください。
- 新パスワードは忘れないように注意してください。

以上で、管理者パスワードの変更は完了です。

10. ガードパラメータの設定方法

「DPM を初めてお使いになる場合（初期導入時）」の「3.ガードパラメータの設定」を参照してください。

11. RAID 設定イメージファイルの作成方法

ここでは、DPM を使用して、RAID の設定を行う場合に作成する、RAID 設定イメージファイルの作成方法を説明します。Express5800/110Ba-m3 の場合は、RAID 設定イメージファイルを作成する必要はありません。

- (1) AutoRAID モジュールを Web 上よりダウンロードして、DPM に登録する。
詳しくは「<http://www.ace.comp.nec.co.jp/DPM>」を参照してください。

- (2) RAID 情報ファイルの作成を行う。
[セットアップパラメータファイルの作成]画面の[オプション]メニューから、[RAID 設定]の[RAID 情報ファイル新規作成]を選択する。
[ディスクの設定]画面が表示されます。

The screenshot shows a Windows-style dialog box titled "ディスクの設定" (Disk Settings). It has a close button (X) in the top right corner. Inside the dialog, there are several settings:

- RAIDアダプタ (RAID Adapter): A dropdown menu showing "Raid0_adapta".
- 接続ディスクのトータル数 (Total number of connected disks): A text input field containing the number "3".
- バックを構成するディスク数 (Number of disks to configure the back): A text input field containing the number "3".
- バックを構成するRAID (RAID to configure the back): A dropdown menu showing "Raid5".
- ライトモード (Write mode): Two radio buttons, "自動設定" (Automatic) which is selected, and "手動設定" (Manual). Below the radio buttons is an empty text input field.

At the bottom of the dialog are two buttons: "OK" and "キャンセル" (Cancel).

ヒント

[セットアップパラメータファイルの作成]画面の表示方法は、「シナリオ実行までの流れ」の「4.イメージファイルの作成」を参照してください。

以下の各項目を設定します。

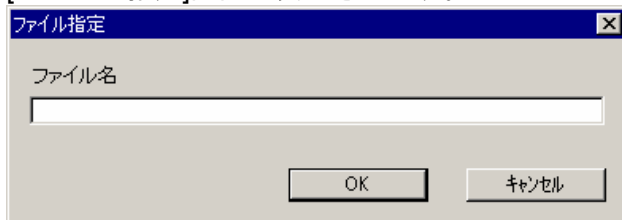
- RAID アダプタ
設定するディスクアレイコントローラを指定します。(1)で登録したモジュールを選択してください。
- 接続ディスクのトータル数
接続されているディスクのトータル数を入力します。

- パックを構成するディスク数
1つのフィジカルパックを構成するハードディスクの台数を指定します。
- パックを構成する RAID
RAID レベルを指定します。
- ライトモード
書き込みモードを指定します。手動設定の場合は以下の2つより指定できます。
「WRITE_THRU」：データの書き込み時、データの HDD への書き込み完了を待って命令終了とする方式
「WRITE_BACK」：データの書き込み時、キャッシュにデータを書き込んだ時点で命令終了とする方式

注意

ディスクアレイコントローラにより設定できる項目、範囲が異なります。詳しくは装置添付のユーザズガイド、または各コントローラの説明書を参照してください。

- (3) [OK]ボタンをクリックする。
[ファイル指定]画面が表示されます。



- (4) 保存するファイル名を指定して、[OK]ボタンをクリックする。
RAID 情報ファイルが作成されます。

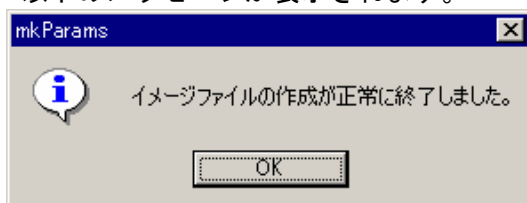
ヒント

- ファイル名は半角 25 文字まで入力できます。
ただし、¥ / : ; * ? " < > | は使用できません。
- 作成した RAID 情報ファイルを修正する時は、[RAID 設定]の[RAID 情報ファイル修正]を選択してください。

- (5) RAID 設定イメージファイルの作成を行う。
[セットアップパラメータファイルの作成]画面の[オプション]メニューから、[RAID 設定]の[RAID 設定イメージファイルの作成]を選択する。
[RAID 情報ファイルの選択]ダイアログ画面が表示されます。

- (6) (4)で作成した RAID 情報ファイルを選択して、[OK]ボタンをクリックする。
[RAID 設定イメージファイルの保存]ダイアログ画面が表示されます。

- (7) 保存するファイル名を指定して、[OK]ボタンをクリックする。
以下のメッセージが表示されます。



- (8) [OK]ボタンをクリックする。

以上で、RAID 設定イメージファイルの作成は完了です。

12. Red Hat Linux のインストール

- DPM を使用することで、Linux をネットワーク経由で自動インストールすることができます。

重要

OS クリアインストールをサポートする Linux OS は Linux 基本サービスセットを参照してください。

ヒント

インストールの条件については Linux 基本サービスセットの適用手順を参照してください。

- ここでは、コンピュータに対して Red Hat Enterprise Linux ES 3 Update4 をインストールするための DPM の設定、及び操作手順を説明します。

シナリオ実行までの流れ



用意するもの

- 『Linux 基本サービスセット ソフトウェア CD-ROM』
- 『RED HAT ENTERPRISE LINUX ES 3 インストール CD1』
- 『RED HAT ENTERPRISE LINUX ES 3 インストール CD2』
- 『RED HAT ENTERPRISE LINUX ES 3 インストール CD3』
- 『RED HAT ENTERPRISE LINUX ES 3 インストール CD4』
- 『Red Hat Enterprise Linux ES 3 Update 4 Binary Disc 1』 ※
- 『Red Hat Enterprise Linux ES 3 Update 4 Binary Disc 2』 ※
- 『Red Hat Enterprise Linux ES 3 Update 4 Binary Disc 3』 ※
- 『Red Hat Enterprise Linux ES 3 Update 4 Binary Disc 4』 ※

※Red Hat Network にログインし、ISO フォーマットイメージファイルをダウンロードして CD 媒体を作成する必要があります。「Red Hat Enterprise Linux ES version 3 Update 4」用の媒体は Red Hat Network よりダウンロードして、CD 媒体を作成します。

手順は以下の通りです。

- (1) Red Hat Network(<https://rhn.redhat.com/>)へログインします。
「Red Hat Enterprise Linux ES version 3」の製品 Activate を行ったアカウントでログインしてください。
- (2) “Channels”を押下します。
- (3) Channel Name 内の“Red Hat Enterprise Linux ES(v. 3 for x86)”を選択します。
- (4) “Downloads”を押下します。
- (5) “Red Hat Enterprise Linux 3 ES (i386) Update 4”から「Binary Disc 1」～「Binary Disc 4」の ISO フォーマットイメージファイルをダウンロードします。
- (6) ダウンロードした 4 枚分の ISO フォーマットイメージファイルを CD ライティングソフトを使用して、CD-R 媒体に書き込みます。

作成した各 CD の内容を表示して、“RedHat”のディレクトリが表示されれば CD の作成は成功です。

ヒント

インストールに必要なファイルは、以下になります。

- Red Hat Linux のインストール CD の内容
- initrd.img、vmlinuz ファイル
- キックスタートファイル (ks.cfg)
- パラメータファイル (syslinux.cfg)
- PXE ブートファイル (pxelinux.bin)

ヒント

インストールを行うコンピュータが市販のパッケージ品で動作する事とネットワーク経由でインストール可能な事を確認してからインストールを行ってください。

NFS サービスを Windows 上に構築する場合は、以下のソフトウェアも必要になります。
NFS サービスのインストール手順については、製品に添付の説明書等をご覧ください。

- Microsoft (R) Windows (R) Services for UNIX 2.0、3.0、3.5 のいずれか

重要

DPM を使用した Red Hat Enterprise Linux ES 3 Update4 のネットワークインストールを行うには、DPM 以外に、DHCP サービス、NFS サービスが必要になります。
DHCP サービス、NFS サービスは、Windows 上以外に構築したものでも構いません（例えば、Linux 上に構築したものを使用することもできます）。

注意

Microsoft (R) Windows (R) Services for UNIX のインストールに関しては各製品のインストール条件を満たすようにしてください。

12.1 NFS サービスのセットアップ

- 最初に、NFS サービスをセットアップします。NFS サーバを構築してください。Windows 上に構築する場合は、Services for UNIX をインストールします。インストールについては製品添付の説明書等をご覧ください。インストール後に再起動が必要になります。

注意

- Services for UNIX 2.0 は、Windows XP および Windows Server 2003 にはインストールできません。Services for UNIX 2.0 を使用して NFS サーバを構築する場合は、Windows 2000 上に構築してください。
- Services for UNIX 3.0、3.5 を Windows XP にインストールするときは[標準インストール]では NFS サーバがインストールされません。
[インストールオプション]で[カスタムインストール]にチェックをいれ、以降の画面で以下の設定を行ってください。
 - ・ [コンポーネントを選択]で下記の 2 つのコンポーネントを追加してください。

Windows Services For UNIX - NFS

- NFS サーバー

NFS 認証ツール - NFS 認証サーバー
 - ・ [セキュリティの設定]で「既定の動作を大文字と小文字を区別する設定に変更します」にチェックを入れてください。上記の設定を行った場合、「Service for NFS」のスタートアップの設定を変更する必要はありません。
- "exports"ディレクトリを Windows XP および Windows Server 2003 上で設定するには、「Linux インストール出荷モデル」「市販ディストリビューション」とも共通で、以下の設定が必要となります。
 - Windows Server 2003 の場合
 - (1) [スタート] → [プログラム] → [管理ツール] → [ローカルセキュリティポリシー] を選択し、[ローカルポリシー] → [セキュリティオプション]の[ネットワークアクセス : Everyone のアクセス許可を、匿名ユーザーに適用する]を[有効]にしてください。
 - (2) "exports"ディレクトリのプロパティの「セキュリティ」タブに"everyone"を追加して、アクセス許可の"読み取りと実行"にチェックをいれてください。ただし exports フォルダ配下の ks フォルダのみ、アクセス許可は"読み取り"で問題ありません。
 - Windows XP の場合
 - (1) [スタート] → [設定] → [コントロール パネル] → [フォルダ オプション] を選択し、[表示] タブの[詳細設定]にある [簡易ファイルの共有を使用する(推奨)]をオフにします。
 - (2) Windows Server 2003 の場合の(1)と同じく[ネットワークアクセス : Everyone のアクセス許可を匿名ユーザーに適用する]を[有効]にしてください。
 - (3) Windows Server 2003 の場合の(2)と同じく"everyone"の追加とアクセス許可を設定してください。

ヒント

- Services for UNIX 2.0 はインストールするだけで NFS サーバとして使用することができます。設定は特に必要ありません。Services for UNIX 2.0 をインストールすると、フォルダのプロパティに「NFS 共有」のタブが追加されます。
- Services for UNIX 3.0、3.5 に関しては、インストール完了後、「スタート」メニュー → 「設定」 → 「コントロールパネル」 → 「管理ツール」 → 「サービス」を選択し、「Server for NFS」の「プロパティ」を開きスタートアップの種類を無効から手動もしくは自動に変更して適用後、サービスを開始させます。その後、フォルダのプロパティに「NFS 共有」のタブが追加されます。
- Services for UNIX 3.0 もしくは 3.5 を使用する場合は、「匿名のアクセスを許可する」のチェックボックスにチェックを入れ、アクセス権をクリックし「ルートのアクセスを許可する」のチェックボックスにチェックを入れて「OK」をクリックして画面を終了してください。

- Services for UNIX を使用して、Red Hat Linux のインストールのシナリオを同時に多数のコンピュータに実行する場合、管理サーバ側の OS のクライアントアクセスライセンス（CAL）数を確認してください。
- 詳しくは「ファーストステップガイド 基本操作編 1.5 複数のコンピュータに OS クリアインストールのシナリオを同時実行する際の注意点」を参照してください。

- Linux上でNFSサーバの起動を行うには以下のコマンドを実行してください。

```
# /etc/rc.d/init.d/portmap restart  
# /etc/rc.d/init.d/nfs stop &> /dev/null  
# /etc/rc.d/init.d/nfs start
```

- 起動時にNFSのサービスを有効化するために以下のコマンドを実行してください。

```
# /sbin/chkconfig --level 345 portmap on  
# /sbin/chkconfig --level 345 nfs on
```

12.2 Red Hat Linux インストール CD のコピー

- Red Hat Linux インストール CD のコピーについて説明します。

注意

ディレクトリを作成する場合は、大文字/小文字に注意してください。

- (1) ディスク容量が 3.5GByte 以上空いているドライブ上に、“exports” という名前のディレクトリを作成します。
- (2) “exports” にサブディレクトリ “redhat” という名前のディレクトリを作成します。
- (3) “redhat” にサブディレクトリ “blade” と “blade-ks” という名前のディレクトリを作成します。
- (4) CD ドライブに 「RED HAT ENTERPRISE LINUX ES インストール CD1」 をセットし、全てのファイル/ディレクトリを (3) で作成した “blade” ディレクトリにコピーします。
- (5) CD ドライブに 「RED HAT ENTERPRISE LINUX ES インストール CD2」 をセットし、全てのファイル/ディレクトリを (3) で作成した “blade” ディレクトリにコピーします。ファイルを上書きするか聞かれたら、「全て上書き」を選択します。
- (6) CD ドライブに 「RED HAT ENTERPRISE LINUX ES インストール CD3」 をセットし、全てのファイル/ディレクトリを (3) で作成した “blade” ディレクトリにコピーします。ファイルを上書きするか聞かれたら、「全て上書き」を選択します。
- (7) CD ドライブに 「RED HAT ENTERPRISE LINUX ES インストール CD4」 をセットし、全てのファイル/ディレクトリを (3) で作成した “blade” ディレクトリにコピーします。ファイルを上書きするか聞かれたら、「全て上書き」を選択します。
- (8) (3)で作成した “blade” ディレクトリにサブディレクトリ “UPDATE4” を作成してください。
- (9) CD ドライブに 「Red Hat Enterprise Linux ES 3 Update 4 Binary Disc 1」 をセットし、全てのファイル/ディレクトリを(8)で作成した “UPDATE4” ディレクトリにコピーしてください。
- (10) CD ドライブに 「Red Hat Enterprise Linux ES 3 Update 4 Binary Disc 2」 をセットし、全てのファイル/ディレクトリを(8)で作成した “UPDATE4” ディレクトリにコピーしてください。ファイルを上書きするか聞かれたら、「全て上書き」を選択します。

- (11) CD ドライブに「Red Hat Enterprise Linux ES 3 Update 4 Binary Disc 3」をセットし、全てのファイル/ディレクトリを(8)で作成した“UPDATE4”ディレクトリにコピーしてください。ファイルを上書きするか聞かれたら、「全て上書き」を選択します。
- (12) CD ドライブに「Red Hat Enterprise Linux ES 3 Update 4 Binary Disc 4」をセットし、全てのファイル/ディレクトリを(8)で作成した“UPDATE4”ディレクトリにコピーしてください。ファイルを上書きするか聞かれたら、「全て上書き」を選択します。
- (13) CD ドライブに「Linux 基本サービスセット ソフトウェア CD-ROM」をセットし、全てのファイル/ディレクトリを(3)で作成した“blade”ディレクトリにコピーします。ファイルを上書きするか聞かれたら、「全て上書き」を選択します。
- (14) (1)で作成したディレクトリを exports として NFS で公開します。Services for UNIX2.0 を使用する場合は、“exports”ディレクトリのプロパティ画面を開き、[NFS 共有]タブをクリックして“exports”の共有名でディレクトリを共有してください。

12.3 DHCP サービスのセットアップ

- ここでは、特別な設定は必要ありません。通常の DHCP サーバの設定を行ってください（IP アドレスがリース可能な状態にあることを確認してください）。ただし、Windows 2000 Server 標準添付の DHCP サービス以外を使用して DHCP サーバを構築する場合は、次の点に注意してください。

固定アドレスの使用

例えば Linux を使って DHCP サーバを構築する場合、dhcpd.conf に固定アドレスの指定が必要になる場合があります。

固定アドレスとは、管理対象となる CPU ブレードの MAC アドレスと、リース予定の IP アドレスの組をあらかじめ DHCP サーバに登録しておくことにより、CPU ブレードからのアドレス要求に対して DHCP サーバが固定の IP アドレスをリースする仕組みです。固定アドレスの記述がない場合、DHCP サーバからの応答遅延が発生する場合があります、その場合 PXE 起動（ネットワーク起動）が失敗し、その影響で DeploymentManager が正常に動作できません。Linux 以外の UNIX 系 OS についても、同様に固定アドレスが必要になる場合があります。

以下は、MAC アドレス（12:34:56:78:9A:BC）のホストに固定アドレスを指定した場合の/etc/dhcpd.conf の例です。

```
subnet 192.168.0.0 netmask 255.255.255.0 {
    ...
    ...
    host computer-name {
        hardware ethernet 12:34:56:78:9A:BC;
        fixed-address 192.168.0.32;
    }
}
```

12.4 Linux ブートファイルの準備

- Linux ブートファイルの準備について説明します。
- initrd.img、vmlinuz ファイルのコピーを行います。

- (1) 「Linux 基本サービスセット ソフトウェア CD-ROM」からファイル/フォルダをコピーします。
CD-ROM の¥nec¥Linux¥tftpboot¥pxelinux 配下の全ファイル/フォルダを、フォルダ構造を保ったまま以下のフォルダにコピーします。

<DPM インストールフォルダ>¥PXE¥Images¥pxelinux

ヒント

「DPM インストールフォルダ」は変更していない場合、以下のフォルダになります。（ドライブ名は異なる可能性があります。）

C:¥Program Files¥NEC¥DeploymentManager¥PXE¥Images¥pxelinux

- ks.cfg、syslinux.cfg ファイルのコピー

- (1) 「Linux 基本サービスセット ソフトウェア CD-ROM」の¥nec¥Linux¥kickstart¥ks.cfg ファイルを以下のフォルダにコピーします。その際、コピーした ks.cfg のプロパティを開き、読み取り専用のチェックを外してください。

C:¥exports¥redhat¥blade-ks

ヒント

「3.2 Red Hat Linux インストール CD のコピー」の（3）で作成したフォルダです（ドライブ名は異なる可能性があります）。

ks.cfg の詳細については、基本サービスセットのマニュアルを参照してください。

- (2) 「Linux 基本サービスセット ソフトウェア CD-ROM」の¥nec¥Linux¥kickstart¥syslinux.cfg を以下のフォルダにコピーします。その際、コピーした syslinux.cfg のプロパティを開き、読み取り専用のチェックを外してください。

<DPM 共有フォルダ>¥Ansfile¥Linux

ここに格納するファイルがシナリオ作成の時の、[オペレーティングシステム] タブのパラメータファイル選択リストに表示されます。また、シナリオ作成時にパラメータファイルをコンピュータ名で自動割当をするときは、コンピュータ名とファイルの拡張子も含めて完全に一致するファイル名にしてください。

ヒント

DPM の「共有フォルダ」の設定は、[ファイル] メニューから「詳細設定」を選択し、[全般] タブを参照することで確認できます。DPM の「共有フォルダ」は、変更していない場合、以下のフォルダになります。（ドライブ名は異なる可能性があります。）

C:¥Deploy¥Ansfile¥Linux

重要

ここでコピーしたファイルは実際のネットワーク構成に合わせるためにファイル編集が必要になります。

12.5 Linux ブートファイルの編集

- Linux ブートファイルの編集方法について説明します。

- ks.cfg ファイルの編集

exports¥redhat¥blade-ks ディレクトリにコピーした ks.cfg を環境に合わせて編集します。nfs から始まる行で NFS サーバの指定、part から始まる行でパーティション分割の設定を行います（パーティション分割が不要な場合は、下線部分のみになります）。

重要

ファイルの保存時には改行コードが LF のみとなるようにしてください。Windows 2000 では標準で、CR+LF となります。NOTEPAD では自動的に改行コードが CR+LF となってしまうので編集の際には LF のみで保存できるエディタをご使用ください。

```
nfs --server 192.168.1.254 --dir /exports/redhat/blade
```

ヒント

- CR は Carriage Return（キャリッジリターン）の略で行の先頭に戻すことです。LF はラインフィードの略で一行送ることです。
- CR+LF とは 1 行送って行の先頭に戻すことです。MS-DOS や Windows テキストファイルでは、この 2byte で改行を表します。

ヒント

キックスタートファイルを修正することで、インストールのカスタマイズが可能です。詳細な編集方法については、以下のRedHat Linux社のホームページをご覧ください。
<http://www.jp.redhat.com/manual/DocRHEL3/rhel-sag-ja.pdf>
「9 章 キックスタートインストール」参照

注意

パーティション構成を変更する場合、“/” パーティションサイズを5Gバイト以上としてください。又、/tmpパーティションを個別に構成する場合は、“/” パーティションサイズを3Gバイト以上、“/tmp” パーティションを2Gバイト以上としてください。

- syslinux.cfg ファイルの編集

Ansfile¥Linux ディレクトリにコピーした syslinux.cfg を環境に合わせて編集します（下線部分を、NFS サーバの IP アドレスに変更します）。

重要

ファイルの保存時には改行コードが LF のみとなるようにしてください。Windows 2000 では標準で、CR+LF となります。NOTEPAD では自動的に改行コードが CR+LF となってしまうので編集の際には LF のみで保存できるエディタをご使用ください。

```
prompt 0
```

```
timeout 50
```

```
default blade-bto
```

```
label blade-bto
```

```
kernel RedHat/blade/vmlinuz
```

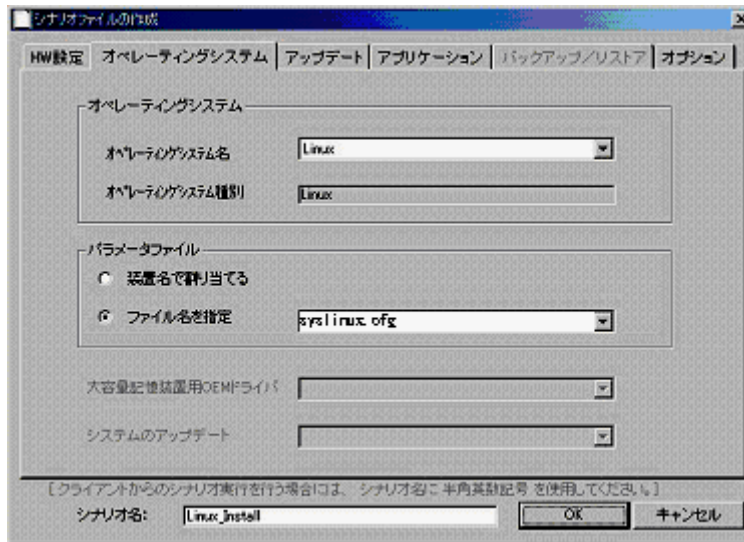
```
append initrd=RedHat/blade/initrd.img
```

```
ks=nfs:192.168.1.254:/exports/redhat/blade-ks/ks.cfg ksdevice=eth0
```

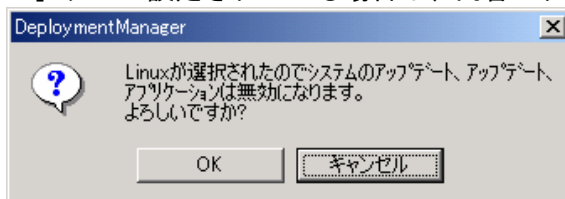
（append で始まる行と ks= で始まる行が 2 行に渡って記述されていますが 1 行です。）

12.6 シナリオファイルの作成

- シナリオの作成と、シナリオの割り当てを行います。操作方法については、「ファーストステップガイド 基本操作編 1.3 シナリオファイルの作成」を参照してください。下図のような「シナリオファイルの作成」画面になります。シナリオファイル作成時には、下記に注意してください



- Red Hat Linux のインストールでは、サービスパック/HotFix、アプリケーションインストールの機能を同時に設定することはできません。
- 「オペレーティングシステム」での「オペレーティングシステム名」で「Linux」を選択すると、下図のメッセージが表示されます。「OK」を押すと、「アップデート」タブや「アプリケーション」タブに設定されている場合は、内容がクリアされます。



- 「パラメータファイル」では、「ファイル名を指定」にチェックを入れ、「syslinux.cfg」を選択してください。

12.7 シナリオ実行

- シナリオ実行により、Red Hat Enterprise Linux ES 3 Update4 のインストールが開始されます。操作方法については、の「ファーストステップガイド 基本操作編 1.4 シナリオ実行」を参照し、同様の手順で行ってください。

注意

「インストール実行時に、USB機器を以下の様に接続していると、インストールが中断する場合があります。インストール実行時はUSB機器を何も接続しない状態で行うか、以下の接続構成以外の状態でインストールを行ってください。

- キーボードとフロッピーディスクドライブを接続、さらに、キーボードのUSBポートにCD-ROMのみを接続」

12.8 注意事項、その他

■ 注意事項とその他について説明します。

- (1) インストールされる Red Hat Enterprise Linux ES 3 のパッケージは、インストールタイプとして「サーバシステム」を選択し、「サーバシステム」タイプのインストール可能な追加パッケージ全てを選択した場合と同等のインストールを行います。通常の「Red Hat Enterprise Linux ES 3」と以下の点が異なります。
 - Intel の LAN ボード使用時のドライバを"eepro100"から"e100"に変更しています。
 - ネットワークの設定が DHCP サーバを使用するように設定されています。
 - telnet でログイン可能にする為、xinetd と ファイアウォールの設定で telnet を許可にしています。
 - telnet ログインする為のユーザ blade を作成しています。(パスワード:bladeserver)
- (2) インストール直後の root パスワードは、キックスタータファイルを編集しなかった場合、以下の様に初期設定されています。ログイン後、すぐに変更してください。
login: root
password: necblade

表示メニューについて

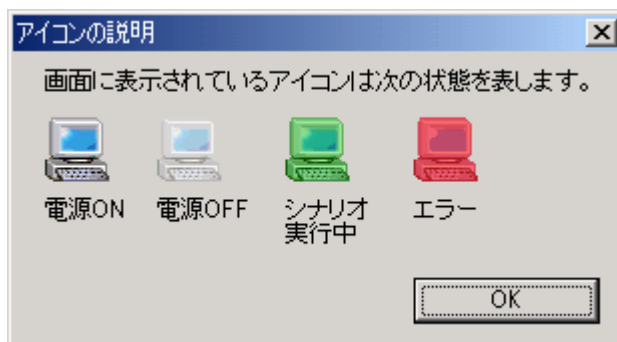
メインウィンドウ画面の表示に関連する設定を行います。

- メニューバー表示
メニューバーの表示／非表示を設定します。
- シナリオビュー表示
シナリオビューの表示／非表示を設定します。
- シナリオ実行一覧表示 (F4 キーでも表示できます)
シナリオ実行状況一覧画面を表示します。
- 最新の情報に更新(F5 キーでも更新できます)
メインウィンドウに表示されている装置等の最新情報を更新します。
更新実行中の場合は、“更新処理中です。しばらくおまちください”というダイアログボックスを表示します。

ヘルプメニューについて

以下の情報を表示します。

- アイコンの説明
コンピュータの状態を表示します。



- オンラインヘルプ
- バージョン情報の表示

CPU ブレードの交換について

CPU ブレードを交換する時には、DPM に登録された情報も変更/更新する必要があります。
登録情報の変更/更新は以下の手順にしたがって行ってください。

ICMB 接続されていない場合

- (1) 交換したい CPU ブレードの電源をオフにする。
- (2) ツリービューまたはイメージビューから、交換する CPU ブレードを選択する。
- (3) 選択した CPU ブレードを右クリックし、「CPU ブレードの削除」を選択する。
- (4) CPU ブレードを交換する。
- (5) 「シナリオ実行までの流れ」の「3. コンピュータの登録」の「3.1 CPU ブレードの登録 (ICMB 接続されていない場合)」を参照し、交換した CPU ブレードを再登録する。

ICMB 接続されている場合

- (1) 交換したい CPU ブレードの電源をオフにする。
- (2) CPU ブレードを交換する。
「シナリオ実行までの流れ」の「3. コンピュータの登録」の「3.2 CPU ブレードの登録 (ICMB 接続している場合)」を参照し、交換した CPU ブレードを再登録する。

リモートアップデートサービスとエージェントサービスのインストール

また、DPM が管理するコンピュータをリモートでシャットダウンするためには SystemGlobe DeploymentManager エージェントサービスのインストールが必要です。この、エージェントサービスは次の場合は自動でインストールされます。

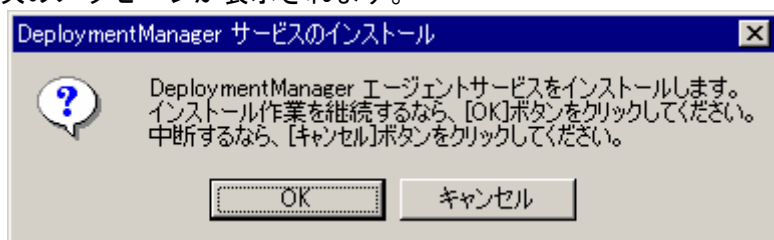
-ブレードサーバで、Windows 2000、または、Windows Server 2003 をプレインストールした出荷モデル
-DPM を使用して Windows OS をインストールした場合

上記の方法以外で、コンピュータに Windows OS をインストールした場合は、以下の手順に従って本サービスをインストールしてください。

重要

本サービスは Windows 2000、Windows XP、Windows Server 2003 専用です。
Linux はリモートアップデートやリモートシャットダウンはできません。

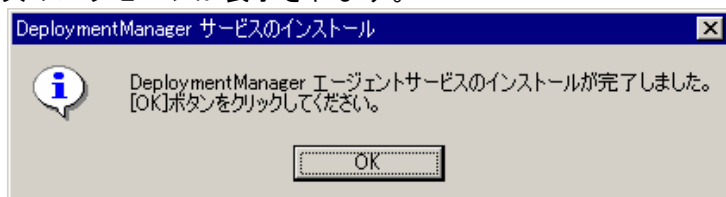
- (1) サービスをインストールするコンピュータに、Administrator 権限をもったユーザでログインする。
- (2) EXPRESSBUILDER CD-ROM をコンピュータの CD-ROM ドライブに挿入する。
- (3) 「CD-ROM ドライブ名:¥DPML¥Tools¥Services¥update.vbs」を実行する。
エージェントサービスのインストールを行います。
次のメッセージが表示されます。



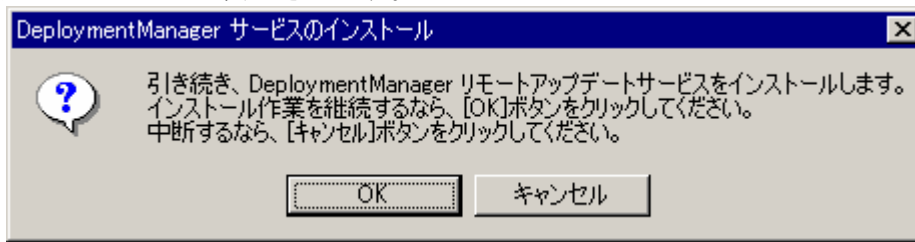
- (4) [OK]ボタンをクリックする。
[管理サーバ IP アドレス設定]画面が表示されます。



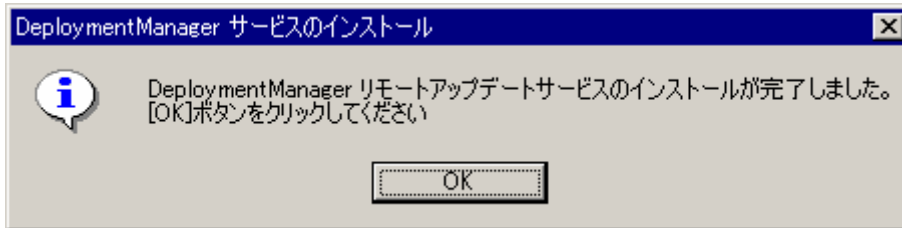
- (5) [管理サーバの IP アドレスを入力して、[OK]ボタンをクリックする。
次のメッセージが表示されます。



- (6) [OK]ボタンをクリックする。
引き続き、リモートアップデートサービスのインストールを行います。
次のメッセージが表示されます。



- (7) [OK]ボタンをクリックする。
次のメッセージが表示されます。



- (8) [OK]ボタンをクリックする。

以上でリモートアップデートサービスと、エージェントサービスのインストールは完了です。

ヒント

- システムを再起動する必要はありません。
- CPU ブレードに CD-ROM が接続されていない場合は、ネットワークを使用して任意のフォルダにコピーして実行することもできます。

リモートアップデートサービスのアンインストール

SystemGlobe DeploymentManager リモートアップデートサービスは以下の手順でアンインストールします。

- (1) リモートアップデートサービスがインストールされているコンピュータに Administrator の権限を持ったユーザでログインする。
- (2) コマンドプロンプトを起動し、以下を実行します。
C:¥>cd /d %systemroot%¥system32
C:¥WINNT¥system32>rupdsvc.exe -remove
C:¥WINNT¥system32>del rupdsvc.exe
C:¥WINNT¥system32>del clisvc.ini
C:¥WINNT¥system32>del unzip.exe

以上でアンインストールは完了です。

注意

Windows XP、Windows Server 2003 の場合は、「WINNT」の部分を「WINDOWS」に置き換えてコマンドを実行してください。

エージェントサービスのアンインストール

SystemGlobe DeploymentManager エージェントサービスは以下の手順でアンインストールします。

- (1) エージェントサービスがインストールされているコンピュータに Administrator の権限を持ったユーザーでログインする。
- (2) コマンドプロンプトを起動し、以下を実行します。
C:¥>cd /d %systemroot%¥system32
C:¥WINNT¥system32>depagent.exe -remove
C:¥WINNT¥system32>del depagent.exe
C:¥WINNT¥system32>del depagent.dll
C:¥WINNT¥system32>del depinfo.dll

以上でアンインストールは完了です。

注意

Windows XP、または Windows Server 2003 の場合は、「WINNT」の部分で「WINDOWS」に置き換えてコマンドを実行してください。

使用するポート番号について

DPM は以下のポートを使用して通信を行っています。

ルータ、HUB などネットワーク機器を超えて運用される場合は以下のポートに対する通信をルーティング、フォワーディングを行うようにしてください。

項目	プロトコル	ポート番号
電源 ON	UDP	5561
シャットダウン	TCP	56010
生存確認（電源のオン/オフ状態の確認）	ICMP	
ネットワークブート	UDP	67,68,69,4011
OS クリアインストール	TCP	137,138,139,445,56022,56023
クライアント情報の OS /HotFix 情報取得	TCP	56011

注意

- 生存確認（電源オン/オフ状態の確認）は DPM で登録した「コンピュータ名」で通信を行います。
- 「コンピュータ名」で通信ができるようにネットワーク環境を設定してください。

ヒント

- ルータの設定については、購入元にお問い合わせください。
- ICMB 接続時の「強制シャットダウン」、生存確認（電源オン/オフ状態の確認）は LAN を使用しないため、ポート番号の設定は不要です。

Windows Server 2003 R2 について

- Windows Server 2003 R2 のインストールを行う場合、以下の手順で行ってください。
 - (1) Windows Server 2003 R2 の 1 枚目の CD-ROM をイメージビルダーの「オペレーティングシステムの登録」から登録を行います。
 - (2) (1)で登録したイメージ名をシナリオファイルに指定します。
 - (3) (2)で作成したシナリオファイルをコンピュータに割り当てシナリオ実行を行います。
 - (4) シナリオ実行完了後、対象コンピュータの CD-ROM ドライブに Windows Server 2003 R2 の 2 枚目の CD-ROM を挿入し、表示されたダイアログに従ってセットアップを続行します。
- 対象コンピュータの OS が Windows Server 2003 R2 の場合、コンピュータのプロパティ画面では以下のように表示されます。
 - オペレーティングシステム: Microsoft Windows Server 2003 XXXX Edition
 - サービスパック: ServicePack 1

トラブルシューティング

?

DPM インストール途中に以下のエラーが出て、インストールに失敗する。

本プログラムが必要とするサービスの一部が動作していません。
以下のサービスの動作状態を確認後、サービスを開始状態にしてください。
DeploymentManager PXE Mfttp

また、イベントログに以下のメッセージが表示される。

PxeMfttp: Unable to bind to socket on port 17664, Error=0xXXXX



他に TFTP ポートを使用しているアプリケーションが存在する可能性があります。
TFTP ポートを使用しているアプリケーションをアンインストール後、再度 DPM のインストールを行ってください。

?

シナリオ実行中エラーが発生し、イメージビューのコンピュータが赤く点灯した。



以下の方法で、エラーの解除を行ってください。
その後、イベントビューアのエラー内容と、コンピュータにディスプレイを接続し現在の状況を確認しコンピュータが正常な状態で、再度シナリオを実行させてください。

<エラー解除の方法 1>

- (1) イメージビューの、赤く点灯したコンピュータ上で右クリックする。
- (2) [シナリオ実行エラー解除]を選択する。

<エラー解除の方法 2>

- (1) [表示]メニューから、[シナリオ実行状況] → [シナリオ実行一覧]を選択する。
- (2) [シナリオ実行一覧]画面で[ファイル]メニューから、[ステータスの一括クリア]を選択する。
- (3) [ステータス情報のクリア]画面で「シナリオ実行中のエラー」を選択状態にする。
- (4) [OK]ボタンをクリックする。

?

コンピュータに電源を入れても、新規登録されない。

シナリオ実行後、すぐにイメージビューのコンピュータが赤く点灯した。



DHCP 設置場所設定が間違っているか、DHCP サービスが、正常に動作していない可能性があります。

<対処方法>

- [設定]メニューから、[詳細設定]-[DHCP サーバ]タブを選択し、[DHCP サーバの設置場所]が正しく設定されていることを確認してください。
- リースすべき IP アドレスを持つ DHCP スコープが、非アクティブになっていないことを確認して下さい。
- DHCP サーバが承認され、IP アドレスをリース可能な状態にあることを確認して下さい。
- DHCP のアドレスプールが枯渇していないことを確認してください。枯渇している場合は、十分な量のアドレスプールを確保してください。
- Windows 以外の DHCP サービスを使用している場合は(例えば Linux 上に DHCP サーバを構築した場合など)、固定アドレス設定が行われていることを確認してください。

?

シナリオ実行中にエラーが発生し、イメージビューのコンピュータが赤く点灯した。

イベントビューアを確認すると、エラーログ情報が登録されている。



イベントビューアに登録されたログ情報を確認し、それぞれの処理を行ってください。
再実行後も問題が発生する場合は、その問題のため関連サービスが不正動作している可能性があります。実行中のシナリオがあれば終了するのを待って、以下の操作を行なってください。
「スタート」メニュー → 「設定」 → 「コントロールパネル」 → 「管理ツール」 → 「サービス」を選択し、以下のサービスを再起動してください。(停止していれば開始してください)

DeploymentManager Backup/Restore
DeploymentManager Client Management
DeploymentManager client start

DeploymentManager Get Client Information
DeploymentManager PXE Management
DeploymentManager PXE Mtftp
DeploymentManager Remote Update Service
DeploymentManager Scenario Management
DeploymentManager Schedule Management
DeploymentManager Transfer Management

<ログ情報 1>

- ・ Error : Timeout error and stop run scenario. No response from target:

[説明]

一定時間、コンピュータからのレスポンスが無かったため、シナリオが実行タイムアウトしました。コンピュータが入力待ち状態、もしくはエラー表示等で停止している可能性があります。コンピュータ、シナリオ内容、セットアップパラメータファイルなどを確認の上、イメージビューのコンピュータのエラーを解除し、コンピュータの電源を切断後、再度シナリオを実行してください。

<ログ情報 2>

- ・ Error cannot create ¥¥.¥pipe¥xxxxxxxx
- ・ Error cannot connect ¥¥.¥pipe¥xxxxxxxx
- ・ Error cannot send message to ¥¥.¥pipe¥xxxxxxxx
- ・ Error ConnectNamedPipe failed while receiving data via pipe.
- ・ Error Unknown value was returned from the wait function.
- ・ Recieved data from CLIWATCH was corrupt xxxxxxx

[説明]

サービス間の接続準備、接続、データ送信に失敗しました。

管理サーバとコンピュータ間の LAN 接続に問題があるか、管理サーバの高負荷状態等の要因により、リソースが不足している可能性があります。LAN の接続状態および管理サーバの負荷状態を確認の上、イメージビューのコンピュータのエラーを解除し、コンピュータの電源を切断後、再度シナリオを実行してください。

<ログ情報 3>

- ・ Error cannot create thread(xxxxxxxxxxxxx)
- ・ Error cannot allocate xxxxxxxxxxxxxxxxx

[説明]

コンピュータの要求を処理するスレッドの作成や、バッファのメモリ確保に失敗しました。管理サーバの高負荷状態等の要因により、リソースが不足している可能性があります。

管理サーバの状態を確認の上、イメージビューのコンピュータのエラーを解除し、コンピュータの電源を切断後、再度シナリオを実行してください。

<ログ情報 4>

- ・ Error cannot read CLF
- ・ Error cannot change CLF

[説明]

管理しているコンピュータ情報の読み込み、書き込みに失敗しました。

イメージビューのコンピュータのエラーを解除し、コンピュータの電源を切断後、しばらく待って再度シナリオを実行してください。

<ログ情報 5>

- ・ Error cannot get xxxxxx path
- ・ Error cannot read xxxxxx
- ・ Error cannot open xxxxxx

[説明]

ファイル xxxxxx のパス取得、オープン、読み込みに失敗しました。

管理サーバの高負荷状態等の要因により、リソースが不足しているか、レジストリ情報が破壊されている場合があります。管理サーバの状態を確認の上、イメージビューのコ

コンピュータのエラーを解除し、コンピュータの電源を切断後、再度シナリオを実行してください。

<ログ情報 6>

・ WOL Time Out MAC = XX-XX-XX-XX-XX-XX

[説明]

コンピュータの Wake On LAN に失敗しました。
ネットワークケーブルが接続されていないか、Wake On LAN 可能な設定になっていません。POST 中に強制電源オフした場合は、次回起動時 Wake On LAN しないことがあります。
HW 設定を確認してもう一度やり直してください。

<ログ情報 7>

・ Scenario Start WOL Time Out MAC = XX-XX-XX-XX-XX-XX

[説明]

コンピュータの Wake On LAN に失敗しました。
ネットワークケーブルが接続されていないか、Wake On LAN 可能な設定になっていません。POST 中に強制電源オフした場合は、次回起動時 Wake On LAN しないことがあります。
HW 設定を確認してもう一度やり直してください。

<ログ情報 8>

・ scenario start write shared memory MAC : error = XX-XX-XX-XX-XX-XX : XXX

[説明]

GUI またはサービスが異常終了した可能性があります。
以下の手順で DPM を再起動させてください。

- (1) DPM(GUI)が起動している場合は終了させる。
- (2) 「スタート」メニュー → 「設定」 → 「コントロールパネル」 → 「管理ツール」 → 「サービス」 を選択し、以下のサービスを停止させる
DeploymentManager Backup/Restore Management
DeploymentManager Client Management
DeploymentManager client start
DeploymentManager Get Client Information
DeploymentManager PXE Management
DeploymentManager PXE Mfttp
DeploymentManager Remote Update Service
DeploymentManager Scenario Management
DeploymentManager Schedule Management
DeploymentManager Transfer Management
- (3)(2)で停止させたサービスを開始させる
- (4) SystemGlobe DeploymentManager(GUI)を開始させる。
[プログラム]→[SystemGlobe DeploymentManager]→
[SystemGlobe DeploymentManager Lite]
- (5)再度、シナリオ実行を行って下さい。

<ログ情報 9>

・ scenario start update module copy MAC : error = XX-XX-XX-XX-XX-XX : XXX
・ scenario start dir delete error MAC = XX-XX-XX-XX-XX-XX

[説明]

管理サーバの共有フォルダにアクセスできない可能性があります。
管理サーバを再起動させてください。

?

以下のエラーメッセージが表示された。

サーバーのコンピュータ名の取消に失敗しました。
ネットワーク環境を確認してもう一度起動してください。



ネットワークに接続されていない可能性があります。
ネットワークのケーブルが接続されているかどうか確認して再起動してください。

?

サービスが起動していない。



シナリオ実行時に問題が発生してサービスが終了している場合があります。
実行中のシナリオがあれば終了するのを待って、以下の操作を行なってください。
「スタート」メニュー → 「設定」 → 「コントロールパネル」 → 「管理ツール」 → 「サービス」
を選択し、以下のサービスを再起動してください。
(停止していれば開始してください)

DeploymentManager Backup/Restore Management
DeploymentManager Client Management
DeploymentManager client start
DeploymentManager Get Client Information
DeploymentManager PXE Management
DeploymentManager PXE Mtftp
DeploymentManager Remote Update Service
DeploymentManager Scenario Management
DeploymentManager Schedule Management
DeploymentManager Transfer Management

?

シナリオ実行中にエラーが発生し、イメージビューのコンピュータが赤く点灯した。
コンピュータにディスプレイを接続して確認すると以下のメッセージが表示されていた。



表示されているメッセージに従って、それぞれの処理を行ってください。

<メッセージ 1>

Error: Partition is too small for install windows oprationg system.

【説明】

Windows をインストールするときに、「既存のパーティション」に設定した場合、
既存のパーティションが 4GB 未満の場合に表示されます。
4GB 未満のパーティションに Windows をインストールする場合は、手作業によるロー
カルセットアップを行ってください。

<メッセージ 2>

Error: No partitions defined.

【説明】

Windows をインストールするときに、「既存のパーティション」に設定した場合、
既存のパーティションが存在しないときに表示されます。
「新規パーティション」を選択して再実行してください。

<メッセージ 3>

Error: No disk found.

【説明】

Windows をインストールするときに、ハードディスクが接続されていない場合に表示さ
れます。ハードディスクが正しく接続されているかを確認して再実行してください。

?

電源 ON またはシナリオ実行で、コンピュータの電源がオンされない。



POST 中、強制的に電源を切断すると次回起動時に Wake On LAN しない場合があります。
その場合は、POST 完了後電源を切断するか、オペレーティングシステムを起動してシャット
ダウンを行ってください。

Windows OS をインストールするときに、指定しなかったネットワークアダプタの設定が行われて
Windows OS が起動された。

?



Windows2000 は認識したネットワークアダプタを既定値で設定してインストールします。
設定の変更は、Windows OS の起動後、コントロールパネルから行えます。
また、「セットアップパラメータの設定」で設定したネットワークアダプタが実際に接続され
ていなかった場合は、アダプタのセットアップは行われませんが、プロトコルのインストール
だけは行われます。

?

複数枚ネットワークアダプタを装着し、アダプタごとに違うプロトコルを設定したのにどのアダプタ
にも全てプロトコルが設定されている。



仕様です。各アダプタにはインストールされたプロトコル全てが使用できるように設定されま

す。

?

複数枚ネットワークアダプタを設定したとき、TCP/IP のプロトコルの詳細設定が全て DHCP を使用するになっていた。

➡ 複数枚のネットワークアダプタを設定したときに、プロトコルの詳細設定が全て規定値なることがあります。コントロールパネルから詳細設定を行ってください。また、ネットワークアダプタに固定 IP を割り当てるときは複数のアダプタを設定せず 1 枚にしてください。

?

ネットワークアダプタの複数枚接続していないのにプロトコルの詳細設定がすべて規定値になっている（例：TCP/IP の場合 IP アドレス設定したのに DHCP 設定になっているなど）

➡ 複数のプロトコルを設定していませんか？
この場合、複数のネットワークアダプタを接続したときと同じ状態になるため、プロトコルの詳細設定がデフォルト値になります。OS 起動後にコントロールパネルから詳細設定を行ってください。

?

シナリオ実行中に誤って電源を落としてしまった。

➡ シナリオを中断してください。この時、シナリオ実行エラーとならない場合もあります。再度、シナリオを実行しなおしてください。

?

サービスパック、HotFix の実行に失敗しても、管理サーバ上でシナリオ実行が正常に終了したように表示される。

➡ DPM では、サービスパックや HotFix の実行に失敗しても検知できない場合があります。この場合は実行が失敗した原因を取り除いてから、再度、シナリオを実行しなおしてください。

?

DHCP サーバと管理サーバを別々のコンピュータにしたら、コンピュータの MAC アドレスの取得ができなくなった。

➡ 管理サーバ側の DHCP のサービスがまだ、起動している可能性があります。管理サーバで、「スタート」メニュー → 「設定」 → 「コントロールパネル」 → 「管理ツール」 → 「サービス」を選択し、「DHCP Server」の「状態」が「開始」となっていないことを確認してください。「開始」になっていたら、プロパティ画面を開き、スタートアップの種類を無効にして、サービスを停止してください。

➡ DPM の詳細設定で、「別のコンピュータ」にチェックが入っていない可能性があります。DPM のメイン画面、[メニューバー]>[設定]>[詳細設定]を選択し、「DHCP サーバ」タブをクリックし、「別のコンピュータ」にチェックを入れていることを確認してください。チェックが入っていない場合は、チェックを入れて、[OK]ボタンを押したあと、「スタート」メニュー → 「設定」 → 「コントロールパネル」 → 「管理ツール」 → 「サービス」を選択し、「DeploymentManager PXE Management」のサービスを再起動してください。

?

コンピュータがネットワークブートしないため、シナリオが実行できない。

➡ BIOS の設定のネットワークブート順位がハードディスクよりも低く設定されている可能性があります。PXE ブート順位をハードディスクよりも上にして、再度実行し直してください。

?

コンピュータにシナリオを割り当てることができない。

➡ 割当て先のコンピュータがシナリオ実行中のときは、割り当てることができません。コンピュータがシナリオを終了してから割り当てるか、実行中のシナリオを中断して割り当ててください。

➡ コンピュータの登録時にシナリオ割当て許可のチェックをはずしませんでしたか？シナリオ割当てを許可していないと、シナリオを割当てることができません。シナリオを割当てたい場合は、お手数ですがコンピュータを削除してコンピュータの追加をやり直してください。

?

シナリオを中断したときに中断処理が終わらず、イメージビューのコンピュータが赤く点灯したまま元に戻らない。

➡ コンピュータにイメージファイルを転送してしまった後、コンピュータ上で処理が行われている場合、中断しても処理がそのまま進んでしまうことがあります。その場合、中断処理は処理

の終了後となるので、中断処理に時間がかかることがあります。コンピュータ側で処理が終了すると、中断処理が行われますので、処理が終わるまでお待ちください。

?

ブレードサーバの新規登録時、使用していないスロット ID なのに「指定したスロットは使用されているので登録できません。」と表示される。

➡ 登録しようとしているスロット ID のひとつ前のブレードサーバを確認してください。ひとつ前のブレードサーバのスロット幅が2の場合、その次のスロット ID は使用できません。

?

HW 設定、オペレーティングシステムのシナリオを実行した後、コンピュータが再起動する前に、シナリオ実行エラーになる。

➡ 実行前に再起動の強制実行を行う設定をしていますか？していない場合、電源が入っているコンピュータに対しては、シナリオは実行されません。シナリオ修正するか、コンピュータの電源を切ってからもう一度お試しください。

?

シナリオ名を変更したい。

➡ シナリオ名の変更はできません。お手数ですが新しくシナリオを作り直してください。

?

サービスパック/HotFix を設定したシナリオを実行したところ、イメージビューのコンピュータが、緑色のシナリオ実行中状態を示したままで、シナリオ実行終了にならない。

➡ コマンドオプションは正しく設定されていますか？コマンドオプションが正しく設定されていない場合、コンピュータ上に確認ダイアログが表示されてシナリオが実行終了になりません。サービスパックの場合、コマンドオプションは「-u -z」を、HotFix の場合、「-m -z」を指定してください。

?

アプリケーションのシナリオが、実行終了にならない。

➡ インストール時にキー入力が必要で、自動的に終了するアプリケーションでないと、シナリオ実行できません。

?

シナリオ実行したのにメインビューのアイコンがシナリオ実行中にならない。

➡ メニューの表示から最新の情報に更新をクリックするか、F5 キーを押すか、更新ボタンをクリックして画面を更新させると、アイコンが実行中に変わります。またコンピュータのアイコンが実行中を示すまでは、実行中のシナリオに対し、修正または削除を行わないでください。シナリオが正常に実行されない場合があります。

?

電源は ON しているのにイメージビューでのアイコン表示が電源 OFF になっている。

➡ 画面の更新が行われていない可能性があります。メニューの表示から最新の情報に更新をクリックするか、F5 キーを押すか、更新ボタンをクリックして画面を更新させてください。

?

コンピュータの情報をインポートしたのにイメージビューにコンピュータが表示されない。

➡ メニューの表示から最新の情報に更新をクリックするか、F5 キーを押すか、更新ボタンをクリックして画面を更新させると表示されます。

?

管理サーバやDHCPサーバで、複数のLANを使用していて以下のエラーが表示された場合、(1)、(2)の手順に従ってください。

PXE-E51: No DHCP or proxyDHCP offers were received.

PXE-E55: proxyDHCP service did not reply to request on port 4011.

➡ (1) DHCP サーバが使用する IP を変更する。

- 1) プログラム→管理ツール→DHCP を選択する。
- 2) 起動したダイアログの左画面のツリービューからサーバ名を右クリックする。
- 3) 起動したダイアログの「詳細設定」タブをクリックする。
- 4) 「詳細設定」タブ内の「結合」ボタンをクリックする。
- 5) 表示された画面から使用する IP のみにチェックされている状態にする。
(使用しない IP のチェックをはずす)
- 6) OK をクリックし画面を終了する。
- 7) プログラム→管理ツール→サービスを選択する。
- 8) 以下のサービスを「停止」した後「開始」する。

(2) DeploymentManager が使用する IP を変更する。

- 1) メインウィンドウ画面の「設定」→「詳細設定」→「サーバ情報」→「IP アドレス」から選択してください。

?

DPM をアンインストールしてからインストールしたときに、アンインストールする前のシナリオやグループが残っている。

- ➡ アンインストールが正常に行われなかった場合があります。お手数ですが、もう一度アンインストールして、システムドライブ:¥Program Files¥NEC¥DeploymentManager と C:¥Deploy 共有フォルダを削除してからもう一度インストールしなおしてください。

?

OS クリアインストールのインストール中、コンピュータの画面に次のメッセージが表示されてシナリオが停止した。

Cannot connect data server. Please stop running scenario on management server and press any key to reboot

- ➡ 管理サーバの同時アクセス数の最大数を超えて接続しようとしている可能性があります。同時アクセスしているコンピュータを減らしてから再度実行してください。

?

Linux インストール中、次のメッセージが表示されインストールできない。

Could not allocate requested partitions; Partitioning failed:

Could not allocate partitions as primary partitions

- ➡ シナリオ作成画面の「HW 設定」タブで「DeleteAllPartition」イメージファイルを選択してシナリオ作成し、実行してください。そのあと Linux のインストールを行ってください。

?

コンピュータの終了時にスタンバイ機能が表示されていない。

- ➡ 以下について確認してください。

- ・ターミナルサービスが有効の場合、スタンバイ機能は使用できません。コントロールパネルからターミナルサービスを無効化してください。
- ・デバイスのドライバ等が正常にインストールされていないと、スタンバイ機能が使用できない場合があります。マニュアル等に従って設定を行ってください。

?

コンピュータのプロパティから"オペレーティングシステム"、"サービスパック"、詳細ボタンをクリックした時に表示される"アップデート一覧"が表示されない。

- ➡ Express5800/BladeServer シリーズのカスタムインストールモデル*をご購入された場合、"オペレーティングシステム"、"サービスパック"、詳細ボタンをクリックした時に表示される"アップデート一覧"が表示されません。表示するには以下の対応を行ってください。

1. %SystemRoot%\system32¥DepAgent.exe のプロパティのバージョン情報タブからファイルバージョンを確認します。

- 1-1. ファイルバージョンが 1.0.1.2 の場合はリモートアップデートサービスとエージェントサービスを再度インストールする必要があります。詳しくは「[リモートアップデートサービスとエージェントサービスのインストール](#)」を参照してください。

- 1-2. 1-1 以外の場合は DPM を使用してシャットダウンを実行してください。

*ビルド・トゥ・オーダーで Windows 2000、Windows Server 2003 インストール出荷を指定したモデル

- ➡ コンピュータに[SystemGlobe DeploymentManager エージェントサービス]がインストールされているか確認してください。DPM を使用して、Windows OS をインストールした場合は自動でインストールされます。詳しくは「[リモートアップデートとエージェントサービスのインストール](#)」を参照してください。

?

BIOS のアップデートを行うシナリオを実行後、コンピュータがネットワークブートしなくなった。

- ➡ BIOS のアップデートを行うと、BIOS の設定内容が初期値に戻る場合があります。ブートデバイスの優先順位が変更されていないか、ご確認ください。変更されている場合は、ブートデバイスの優先順位の先頭にネットワークブートを指定してください。

?

装置添付のバックアップ CD-ROM を OS クリアインストールに使用すると、インストールできない場合がある。

➡ 装置添付のバックアップ CD-ROM が、Microsoft 社が提供するインストール形式に対応していればインストールできます。Express5800 シリーズに添付されているものはインストール形式に対応しています。その他の場合は、ディスクバックアップイメージ形式になっている可能性がありますので、ご使用いただけない場合があります。

?

Windows OS のクリアインストールを行ったが、必要なデバイスドライバがインストールされない。

➡ デバイスドライバをインストールするためには、適切なデバイスドライバを DPM に登録しシナリオで指定する必要があります。サポート範囲や登録手順は DPM のホームページのサポート一覧を参照してください。

?

管理サーバとして Windows Server 2003 を使用しているが、DPM 初回立ち上げ時に画面のツールバーとビューが重なることがある。

➡ 最初のメイン画面実行時の表示タイミングによっては画面のツールバーとビューが重なることがあります。その場合は、ツールバーの表示／非表示を一度切り替えて頂ければ正常になります。

?

OS インストールがエラーで止まってしまう。

➡ コンピュータ名に以下の文字を使用された場合、OS インストールは途中でエラーとなります。以下の文字はコンピュータ名に使用しない様、ご注意ください。
`~!@#\$%&*()=+[]{}|;:'.<>/?

?

DPM インストール時の初期設定中に下記メッセージが表示された。

「Windows のセキュリティポリシーにより初期設定の一部が完了しませんでした。

Deployment Manager を終了し、セキュリティポリシーを一旦変更する必要があります。

変更内容の詳細についてはユーザズガイドをご参照下さい。」

➡ いったん、DPM のメイン画面を終了し、Windows のセキュリティポリシーをご確認ください。スタートメニューあるいはコントロールパネルの「管理ツール」-「セキュリティポリシー」-「アカウントポリシー」-「パスワードのポリシー」-「パスワードは要求する複雑さを満たす」が「有効」になっている場合は、「無効」に設定してください。

DPM 再起動後に「有効」の設定に戻してください。

注. Windows OS の種類によっては、一部表記が異なることがあります。

?

Windows OS インストール中、テキストベースのセットアップ画面で、文字化けしたメッセージが表示され、インストールが続行できない。

➡ 複数のハードディスクを接続するなど、ディスクアレイコントローラ配下に複数のシステムドライブを作成してインストールを行っていませんか？

OS をインストールするハードディスク以外のハードディスクをいったん取り外した状態でインストールを行ってください。

ディスクアレイコントローラ配下のディスクにインストールする場合は、システムドライブを複数作成せず、1 つだけ作成してインストールを行ってください。複数のシステムドライブを作成する場合は、インストール完了後、ディスクアレイのコンフィギュレーションユーティリティを使用して追加作成してください。

?

パーティションサイズに大きな値を指定して Windows OS のインストールを行ったが、実際に Windows OS を起動してみると、4000MB でシステムパーティションが作成されている。

「パーティションサイズ」で実領域以上の値を設定していませんか？

➡ 全領域（保守領域を除く）を 1 パーティションで作成したい場合は「全領域」を設定するようにしてください。

?

2GB 以上のパーティションに NTFS で Windows OS をインストールしたのにクラスタサイズが 512 バイトでインストールされる。

➡ 自動インストールの仕様です。

?

Windows OS インストールでディスプレイの解像度として指定したものと違う解像度で Windows OS が起動された。

➡ ディスプレイの解像度は、指定された設定が使用できなかった場合、それに近い設定かまたはドライバのデフォルト値が使用されます。

?

Windows OS インストールで間違ったプロダクト ID/CD キーを入力してしまった。

➡ 間違ったプロダクト ID/CD キーを入力しても、自動インストールは開始します。しかし、自動インストール中にストップ、再入力を促されます。また、この場合、自動インストール中の GUI セットアップ終了のリブート時に入力要求が発生します。これら 2 回の入力を行えば、Windows OS のセットアップには問題はありません。

?

Windows OS インストールでネットワークアダプタの詳細設定ができない。

➡ 自動インストールでは、ネットワークアダプタの詳細設定は行えません。Windows OS 起動後、コントロールパネルから設定してください。

?

Windows OS インストールで複数枚ネットワークアダプタを装着し、アダプタごとに違うプロトコルを設定したのに、どのアダプタもすべてのプロトコルが設定されている。

➡ 仕様です。各アダプタにはインストールされたプロトコルすべてが使用できるように設定されます。自動インストールで設定できないものは、すべて既定値になります。

?

Windows OS インストールで複数枚ネットワークアダプタを設定したとき、TCP/IP プロトコルの詳細設定がすべて DHCP を使用するになっている。

➡ 複数枚のネットワークアダプタを設定したときに、プロトコルの詳細設定がすべて既定値になることがあります。コントロールパネルから詳細設定を行ってください。

?

Windows OS インストールでネットワークアダプタを複数枚接続していないのにプロトコルの詳細設定がすべてデフォルト設定になっている。(例: TCP/IP の場合 IP アドレス設定したのに DHCP 設定になっているなど)

➡ 複数のプロトコルを設定していませんか?
この場合、複数のネットワークアダプタを接続したときと同じ状態になるため、プロトコルの詳細設定がデフォルト設定になってしまいます。OS 起動後にコントロールパネルから詳細設定を行ってください。

?

管理サーバに Windows Server 2003 を使用した場合、Express5800/BladeServer 添付の EXPRESSBUILDER から update モジュールの DPM への登録ができないことがある。

➡ ご使用の EXPRESSBUILDER が Windows Server 2003 対応でない場合は、Windows Server 2003 上で動作している DPM へは登録できません。Web 上より登録ツールをダウンロードして、DPM に登録して下さい。詳しくは「<http://www.ace.comp.nec.co.jp/DPM>」を参照してください。

?

ICMB 接続しているターゲットの情報が管理サーバに表示されない。表示はしているが電源は OFF しているのにイメージビューでのアイコン表示が電源 ON になっている。

➡ ターゲットの状態を取得する ESMPRO/ServerAgent が Update されていない場合があります。P7 の「ICMB について」をご覧の上、ESMPRO/ServerAgent を Update してください。

?

イメージビルダーの[登録データの削除]でセットアップパラメータファイルを削除しようとすると、下記のメッセージが表示され削除に失敗する。

「(ファイル名)を削除できません。共有違反がありました。送り側または受け側のファイルは使用中の可能性あります。」

➡ GUI がファイルを使用している可能性があります。お手数ですが一度 GUI を終了させ、GUI 再起動後に同様の手順で削除をお願いします。

?

GUI 起動時、以下のメッセージが表示される。

「本プログラムが必要とするサービスの一部が動作していません。以下のサービスの動作状態を確認後、サービスを開始状態にして下さい。」

➡ 管理サーバが自動ログオンに設定されており、なおかつスタートアップに DPM が登録されていると、サービス開始前に GUI が起動し上記のメッセージが表示される場合があります。
その場合スタートアップから DPM を削除し、再度 GUI を起動してください。

?

電源状態が正しく検知できない。

➡ クライアントのコンピュータが Linux の場合、コンピュータ名による名前解決ができません。別途 DNS サーバの構築または hosts ファイルの編集などの名前解決をしてください。
また、クライアントのコンピュータが Windows の場合、IP アドレスの変更を行った直後は正しく電源状態が検知できないことがあります。しばらくたって再度電源状態の取得を行うか以下のコマンドを実行してキャッシュのクリアを行ってください。

```
nbtstat -R  
ipconfig /flushdns
```

?

OS クリアインストール実行時にシナリオ実行状況と実際のコンピュータの進捗が異なっている。

➡ シナリオ実行中断を行うと、次回シナリオ実行時にシナリオ進捗状況の表示が不正になる場合があります。シナリオ実行中断を行った場合に以下のフォルダに MAC アドレス (xx-xx-xx-xx-xx-xx) 形式のファイルが存在していれば、全てのシナリオが実行していないことを確認してファイルを全て削除してください。
共有フォルダ(デフォルトでは「C:\Deploy」になります。)

?

イメージビルダーの[登録データの削除]でセットアップパラメータファイルを削除しようとする、下記のメッセージが表示され削除に失敗する。

「(ファイル名)を削除できません。共有違反がありました。送り側または受け側のファイルは使用中の可能性あります。」

➡ GUI がファイルを使用している可能性があります。お手数ですが一度 GUI を終了させ、GUI 再起動後に同様の手順で削除をお願いします。

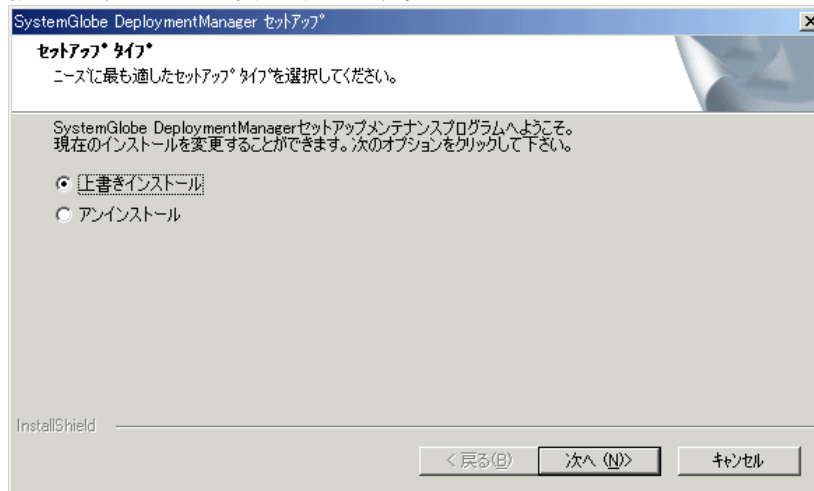
ヒント

最新の情報、サポート一覧は以下の URL の技術情報を参照してください。
<http://www.ace.comp.nec.co.jp/DPM>

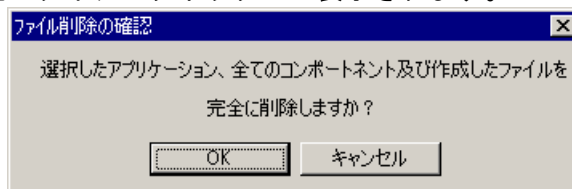
DPM のアンインストール

DPM をアンインストールする場合は、以下の手順で行ってください。
アンインストールを行う前に、DPM に関連する処理等を終了させて下さい。

- (1) [スタート]メニュー → [設定] → [コントロールパネル]を選択する。
- (2) [コントロールパネル]ウィンドウから「アプリケーションの追加と削除」を選択する。
- (3) 「現在インストールされているプログラム」から「SystemGlobe DeploymentManager」を選択し、[変更/削除]ボタンをクリックする。
下記のウィザードが表示されます。



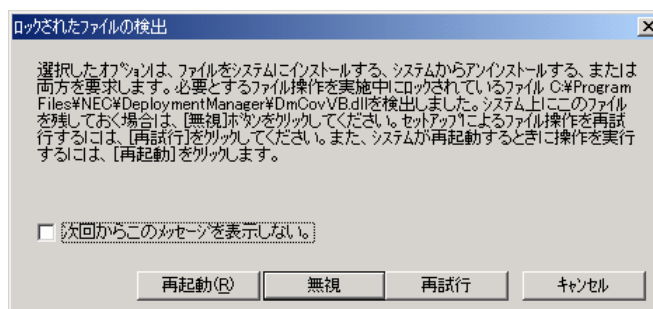
- (4) [アンインストール]ラジオボタンを選択し、[次へ]ボタンをクリックする。
下記のダイアログボックスが表示されます。



- (5) [OK]ボタンをクリックします。以降は画面のメッセージに従って操作を進めてください。

注意

- DPM が起動している時にアンインストールを実施した場合、以下のダイアログが表示されます。
この場合は DPM を終了し、[再試行]ボタンをクリックしてください。
その他のボタンをクリックした場合は、再度アンインストールを行ってください。

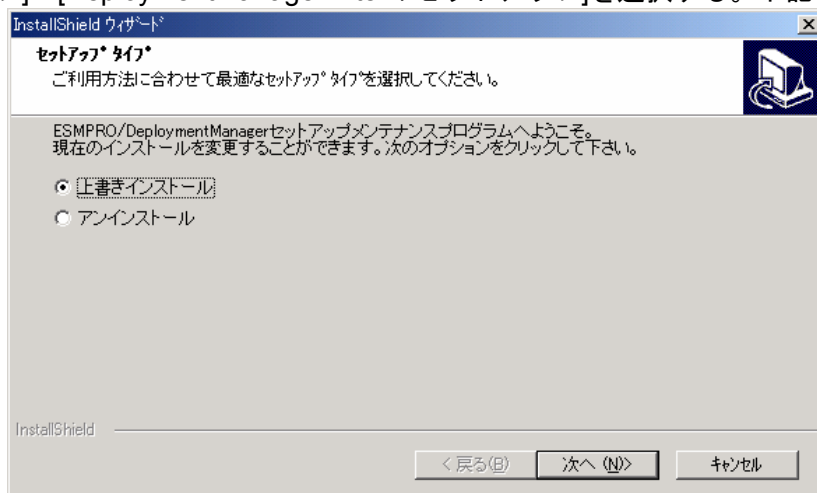


DPM の上書きインストール

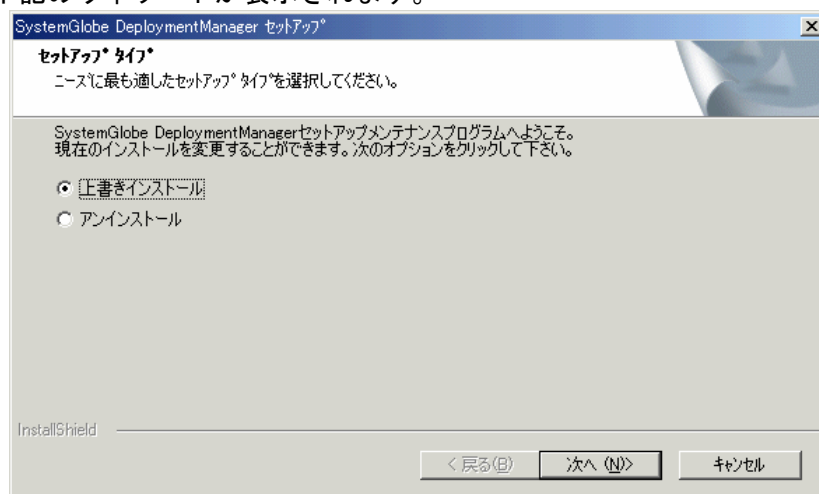
上書きインストールは、インストールされている DPM をバージョンや日付に関係なく上書きします。システムにインストールされている再配布可能な DLL、OCX ファイル等は、新しい日付のファイルのみで上書きされます。

上書きインストールする場合は、以下の手順で行ってください。上書きインストールを行う前に、DPM に関連する処理（メインウィンドウ、イメージビルダー、シナリオ実行等）をすべて終了させてください。

- (1) EXPRESSBUILDER の CD-ROM を挿入する。MC メニューの[ソフトウェアのセットアップ]→[DeploymentManager Lite のセットアップ]を選択する。下記のウィザードが表示されます。



- (2) 下記のウィザードが表示されます。



- (3) [上書きインストール]ラジオボタンを選択し、[次へ]ボタンをクリックする。
以降は、画面の指示に従って作業を続けてください。

注意

- [コントロールパネル]の「アプリケーションの追加と削除」から上書きインストールは実行しないでください。
- DPM Version1.x から Version2.x への上書きインストールは行えません。
- DPM が起動している時に上書きインストールを実施した場合、以下のダイアログが表示されます。
この場合は DPM を終了し、[再試行]ボタンをクリックしてください。
その他のボタンをクリックした場合は、再度上書きインストールを行ってください。

